

ファンタジーの世界をひらく

# おりがみ 2

## 母と子の折紙教室

今月号からはじまった連載。  
折紙の楽しさをやさしく解説。

## ●特集 ひな祭り

内裏びなから5人ばやしまで、  
だれにでも折れる作品を紹介。

あの折紙をもう一度

人気者のパンダ、再び登場!



おりがみ童話

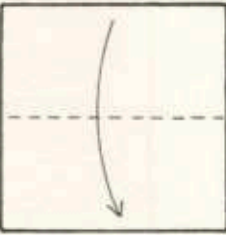

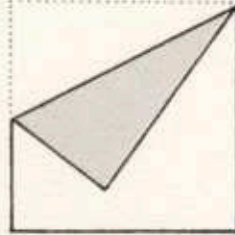


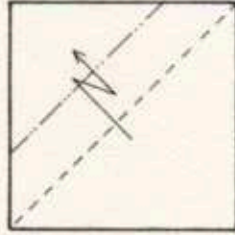
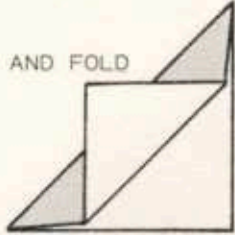
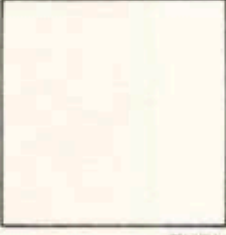


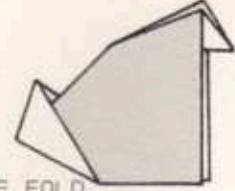
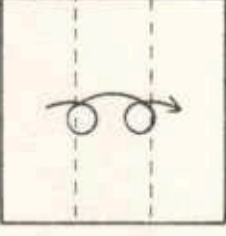



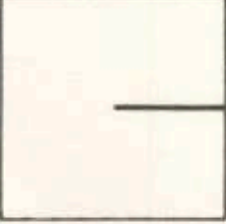
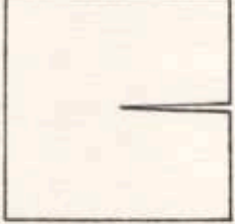


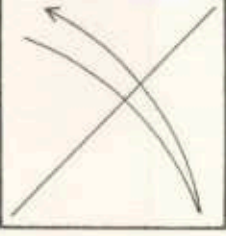
## 野の馬

月の光のなか馬が走る。少年は、遠い  
国へ行ってしまうのだろうか? 今江  
祥智さんのすばらしいメルヘンです。



# 折り方の記号 SYMBOLS

(この本では次の記号によって折り方が示されています。)

 <p>谷折り線 補助記号</p> <p>▼</p> <p>VALLEY FOLD</p> 	 <p>仮想線 (元の形または 次の形などを 示す)</p> <p>PREVIOUS POSITION</p>
 <p>山折り線 補助記号</p> <p>▲</p> <p>MOUNTAIN FOLD</p> 	 <p>FOLD AND FOLD 段折り</p> 
 <p>裏がえす</p> <p>TURN MODEL OVER</p> 	 <p>かぶせ折り 中わり折り</p> <p>REVERSE FOLD</p> 
 <p>まく または 同じ方向に くり返し折る</p> <p>FOLD OVER AND OVER</p> 	 <p>表に折る FOLD IN FRONT</p>  <p>裏へ折る FOLD BEHIND</p>
 <p>切りこみ線 または 切断線 補助記号</p> <p>✂</p> <p>CUT</p> 	 <p>ひらく OPEN</p>  <p>ひきだす PULL OUT</p> <p>押しこむ PUSH IN</p> <p>図を拡大する ENLARGE</p>
 <p>折り筋線</p> <p>FOLD AND UNFOLD TO CREASE</p>	<p>ABCDE... これらの記号は ●◆▲♥…… 必要に応じて随時使用します。</p>



おりがみ 目次

特集・ひな祭り

だれにでも折れるひな人形やお白酒にうかれる浮かれびななど、  
たくさんのひな人形を紹介。

竹川青良、森谷あきよ、奥田光雄、高濱利恵、阿部たづな

2

あの折紙をもう一度

藤部光伸  
笠原邦彦

読者のみなさんに人気のバンダとカラーボックスの折り図。それに、  
バックナンバーの全作品リストを掲載。

34

おりがみ童話

野の馬

繊細で夢みる少年。たった一人で旅立つ夢の国。

文=今江祥智 折紙=石井英子 ペーパークラフト=寺田松雄

24

おりがみ、今、むかし

笠原邦彦

— 伝承作品講座 — 伝承作品の再発見と保存。

20

母と子の折紙教室

今月号からはじまった連載。折紙の楽しさをやさしく解説。

大橋皓也、飯村悦男、中野光枝

12

暮しを飾るおりがみ

満田きく、荒木 京

30

人とおりがみ

小園江圭子

38

おりがみ広場

大橋皓也

40

みなさんが自由に参加して、おしゃべりするページ

応募作品紹介

大橋皓也

42

編集後記

48

表2(左ページ)に折り方図の記号の見方、表3(49ページ)に基本形がのっています、御参照下さい。



# ひな祭り

もうすぐやってくるひな祭り。

やさしいお母さんの折った内裏びな、

お父さんの大きな手からうまれた

左大臣と右大臣。それに私の折った、

3人官女と5人ばやしをくわえて、

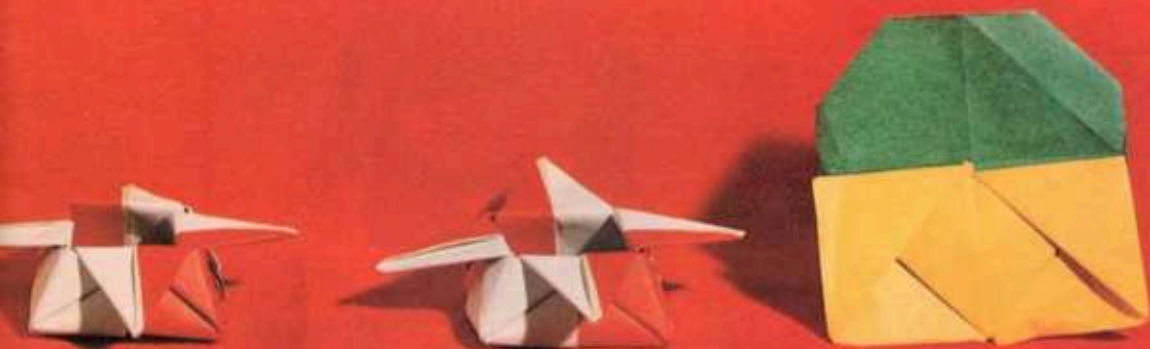
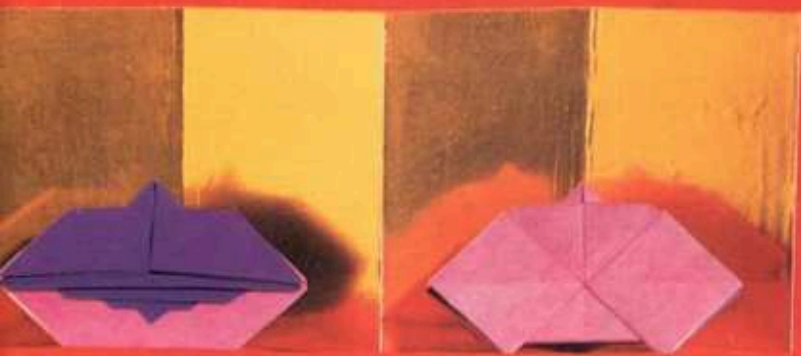
折紙のひな人形ができました。

家族みんなで祝うひな祭り。

やさしい心がかよいます。

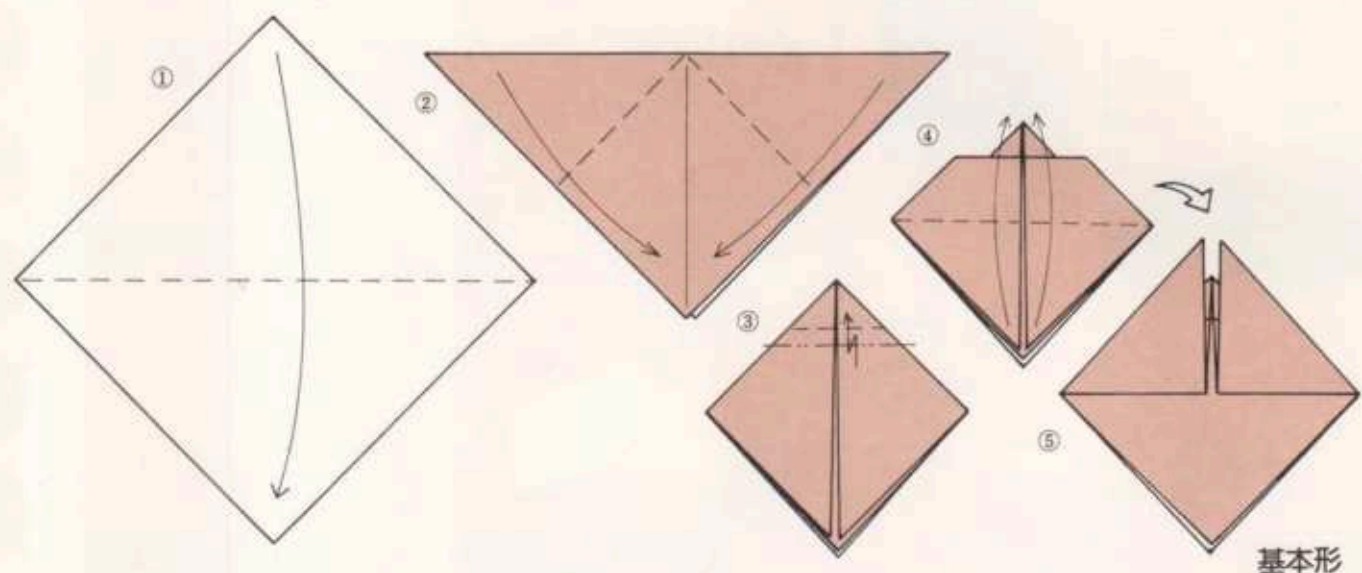






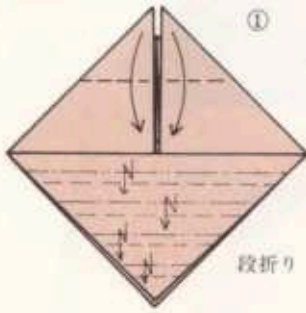
# ひな祭り

高濱利恵

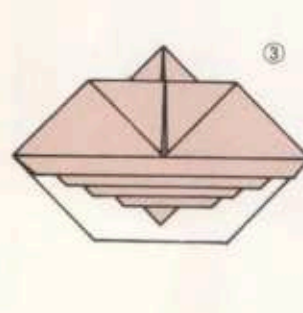
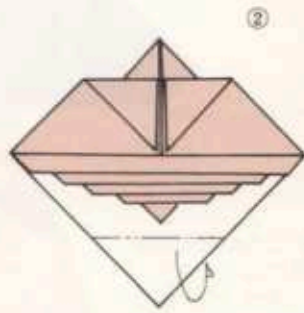




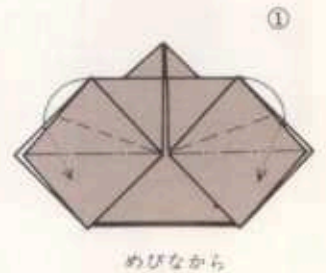
おびな



段折り

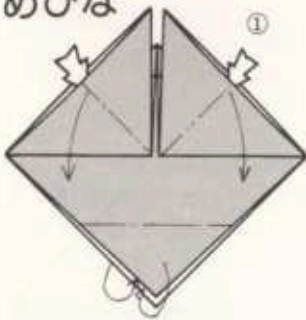


五人ばやし

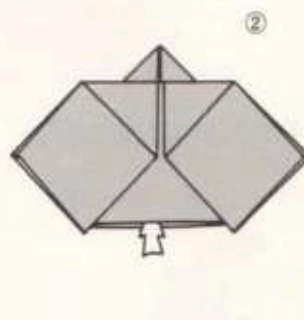


めびなから

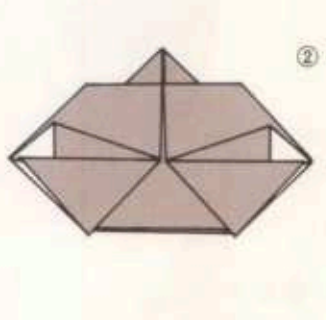
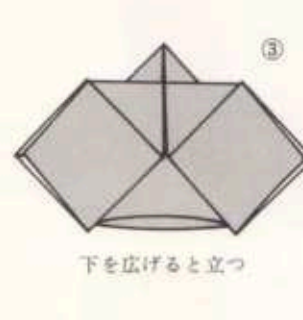
めびな



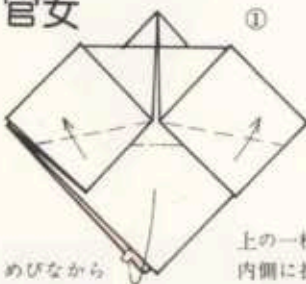
めびなから



下を広げると立つ

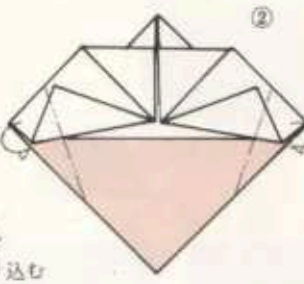


官女

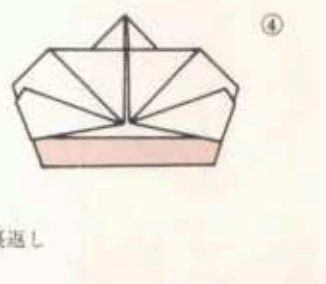
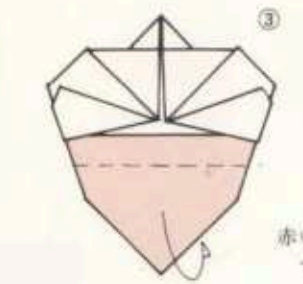


めびなから

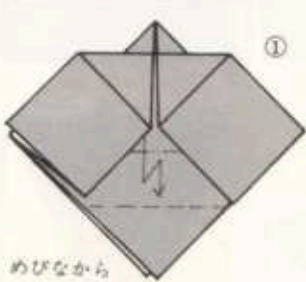
上の一枚を内側に折り込む



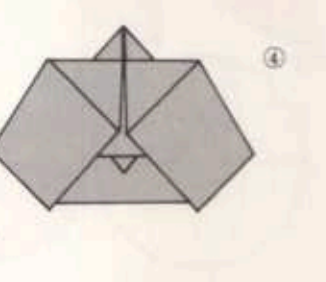
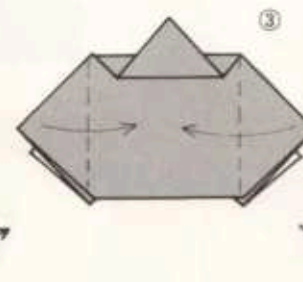
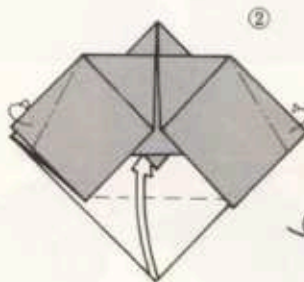
赤い紙を裏返して折る



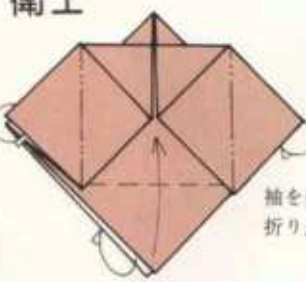
右大臣 左大臣



めびなから

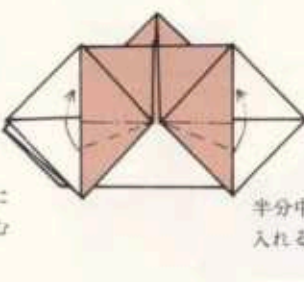


衛士

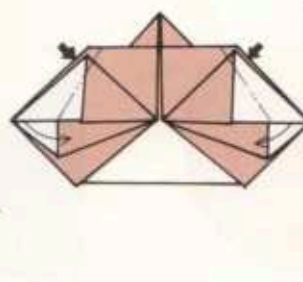


めびなから

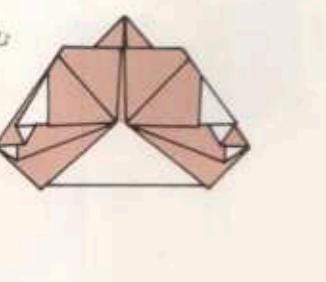
袖を内に折り込む



半分中へ入れる



内側へ押し込む



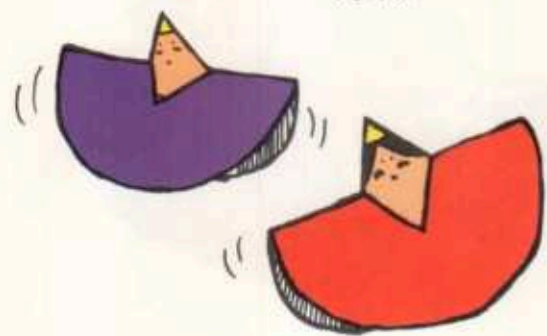
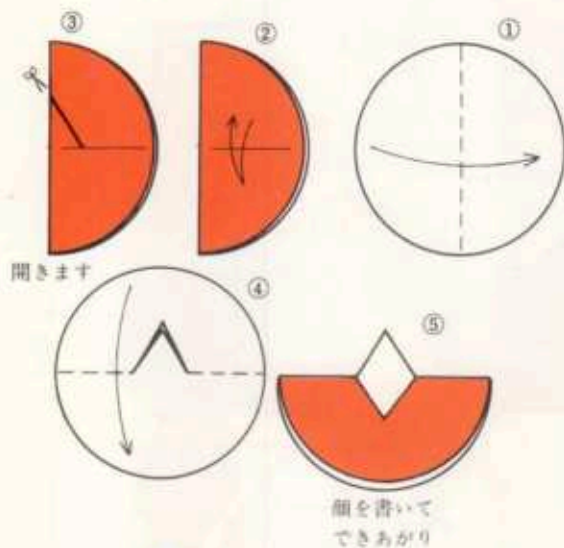
# 浮かれびな・立体びな

竹川青良



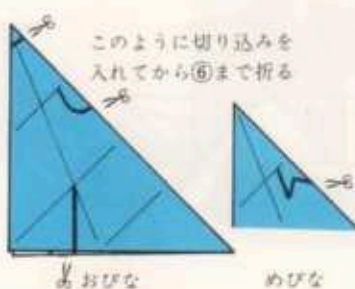
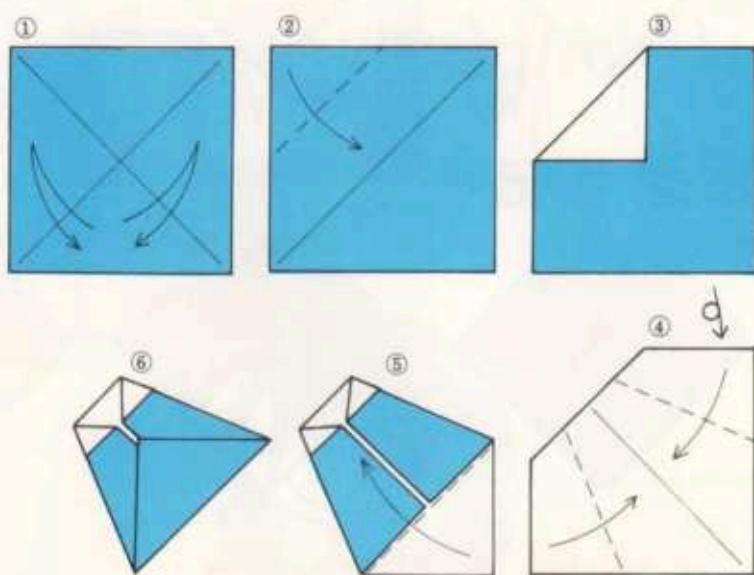
## ●浮かれびな

円形紙使用、半月に折って、ひろげて、その折り筋を重ねる様に又半月に折り戻す様にハサミを入れてから、はじめの折り目で2つ折りにすると3角形が裏紙で突起しますからこれに顔を描き入れます。男雛は紫色、女雛は赤色、櫛髷と笄は描いても貼り紙にしてもよい、台紙に乗せて静かに左右に動かすとお雛様はお白紙に浮かれて踊り出します。



## ●かんだんな立体びな

表外に山折り2回、1つの角を裏外に中心点まで折り、ひっくり返して裏を出し、図の様に左右から中央線まであわせ折りし、別の一方の角を裏のように表外に折りたたみ、以上終ってから、全部を元に広げ、中央線で表外に2つたたみしてから、図のように3ヶ所にハサミを入れます。男雛は紺色、女雛は桃色がよいでしょう。今まで折ってきた折り線をいかせて立体型に組み立てると、男女共に冠だけが、頭の上に出ることになります。後の三角形の折り目を直角にのばせばしっかりと立ちます。顔と櫛髷、笄をそれぞれ描いて下さい。冠にクレパスで色を塗るときは中心部から周縁へ放射状にぬること、でないと紙が破れざりちぎれざりします。



顔を書いてできあがり



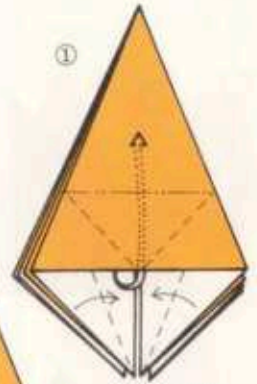
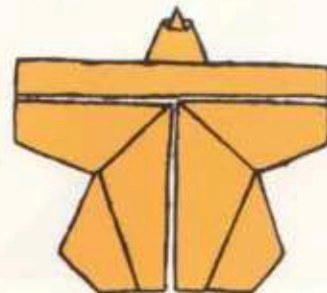
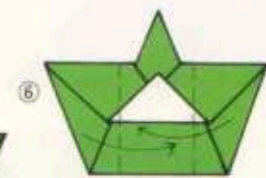
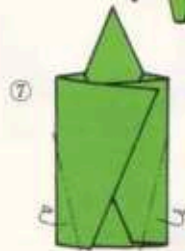
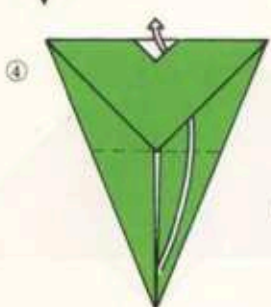
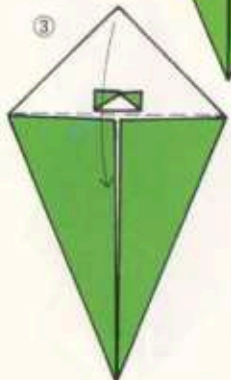
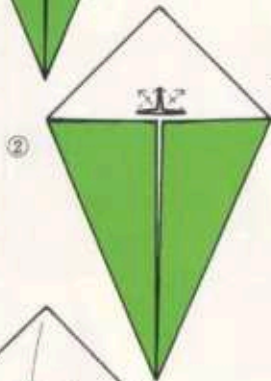
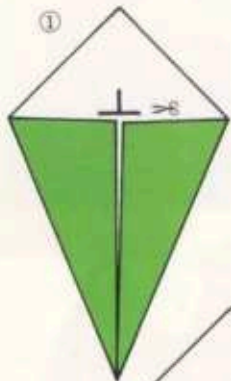


# たちびな

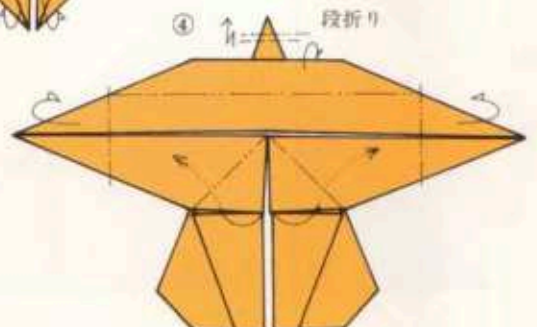
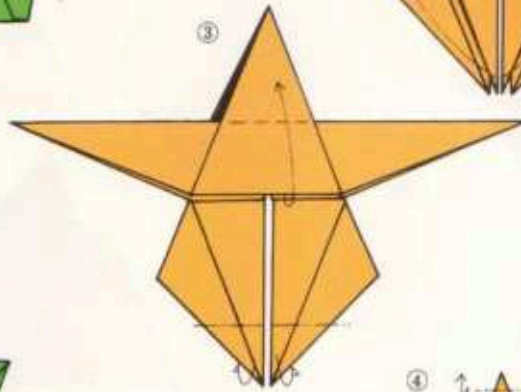
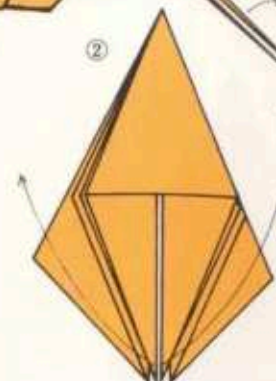
奥田光雄



写真は③のところではサミを入れ顔に裏がでるようにしたものです



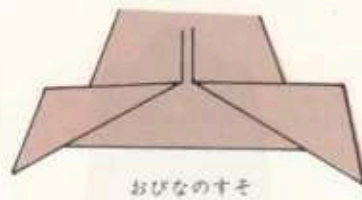
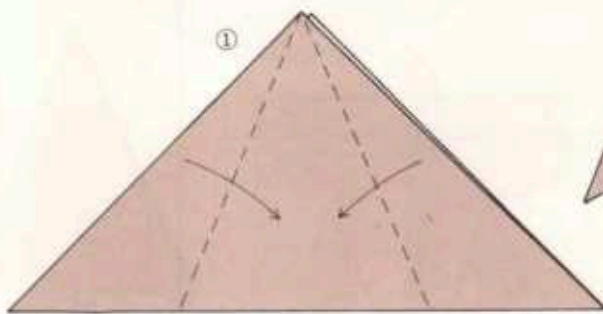
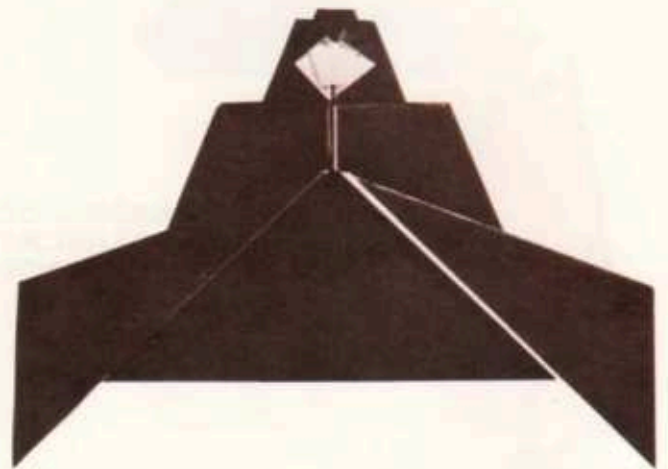
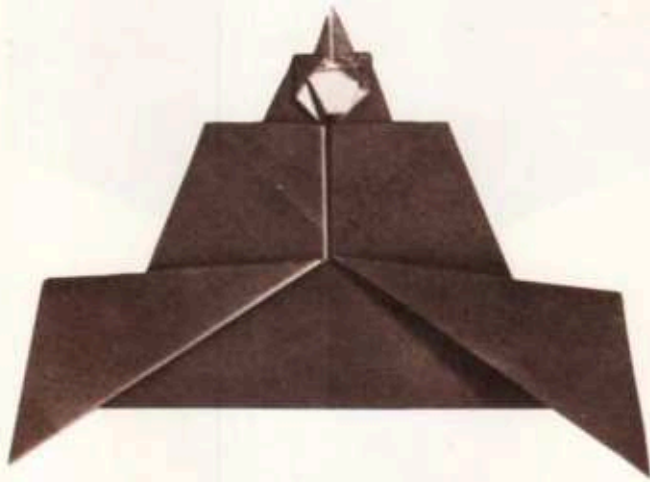
49ページ⑦を全部同じに折る



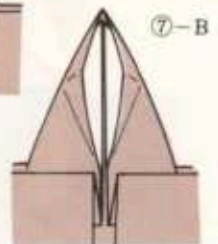
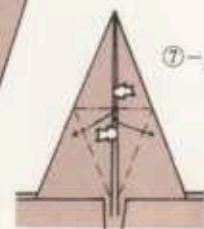
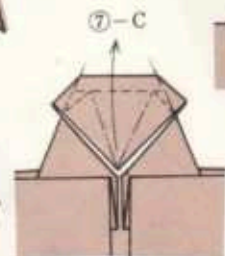
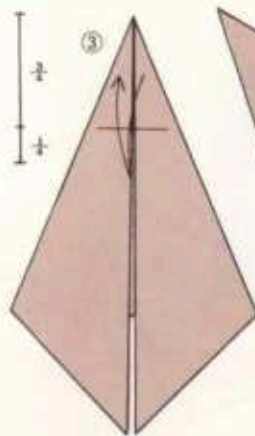
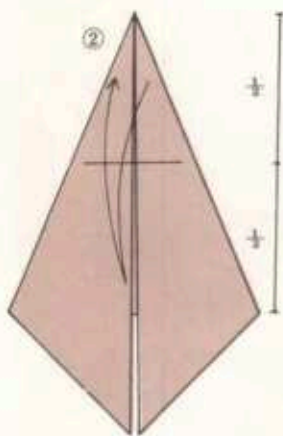
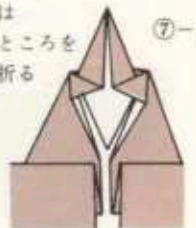


# おびな・めびな

森谷あきよ

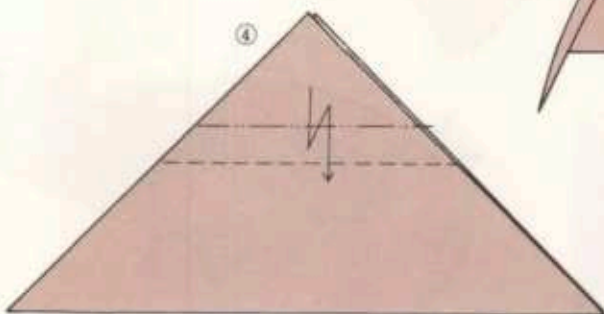
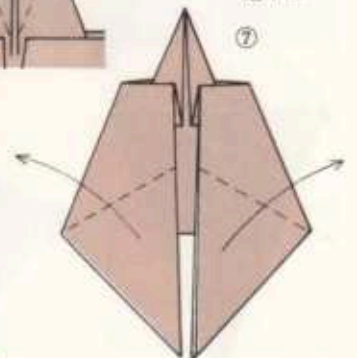
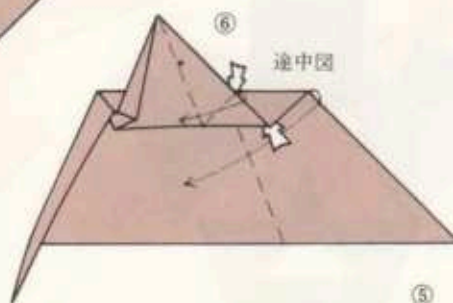


おびなは  
あごのところに  
内側に折る

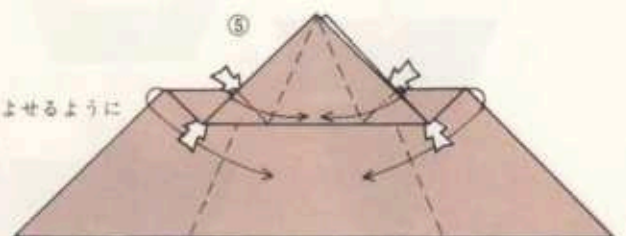


途中図

⑦



ひきよせるように  
折る



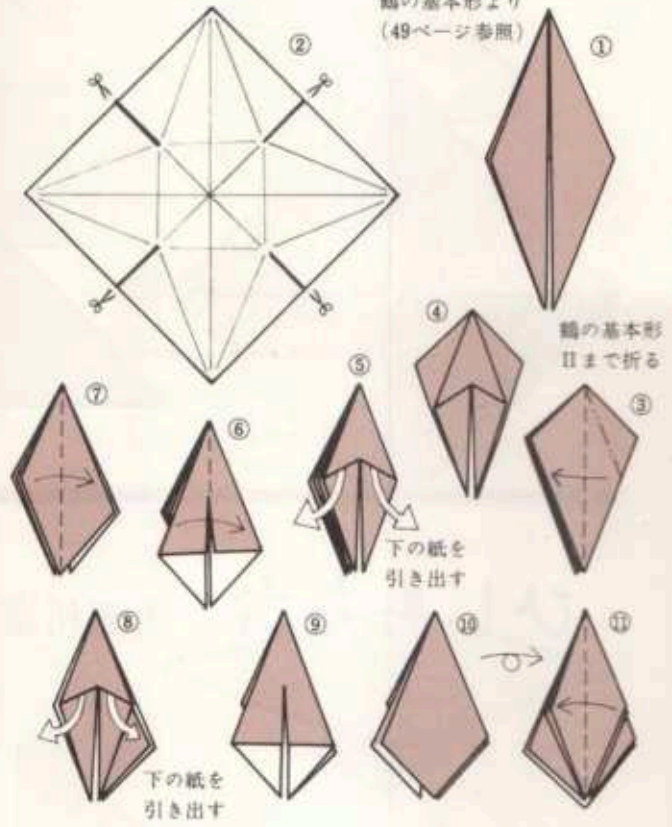


# 内裏びな

阿部たずな



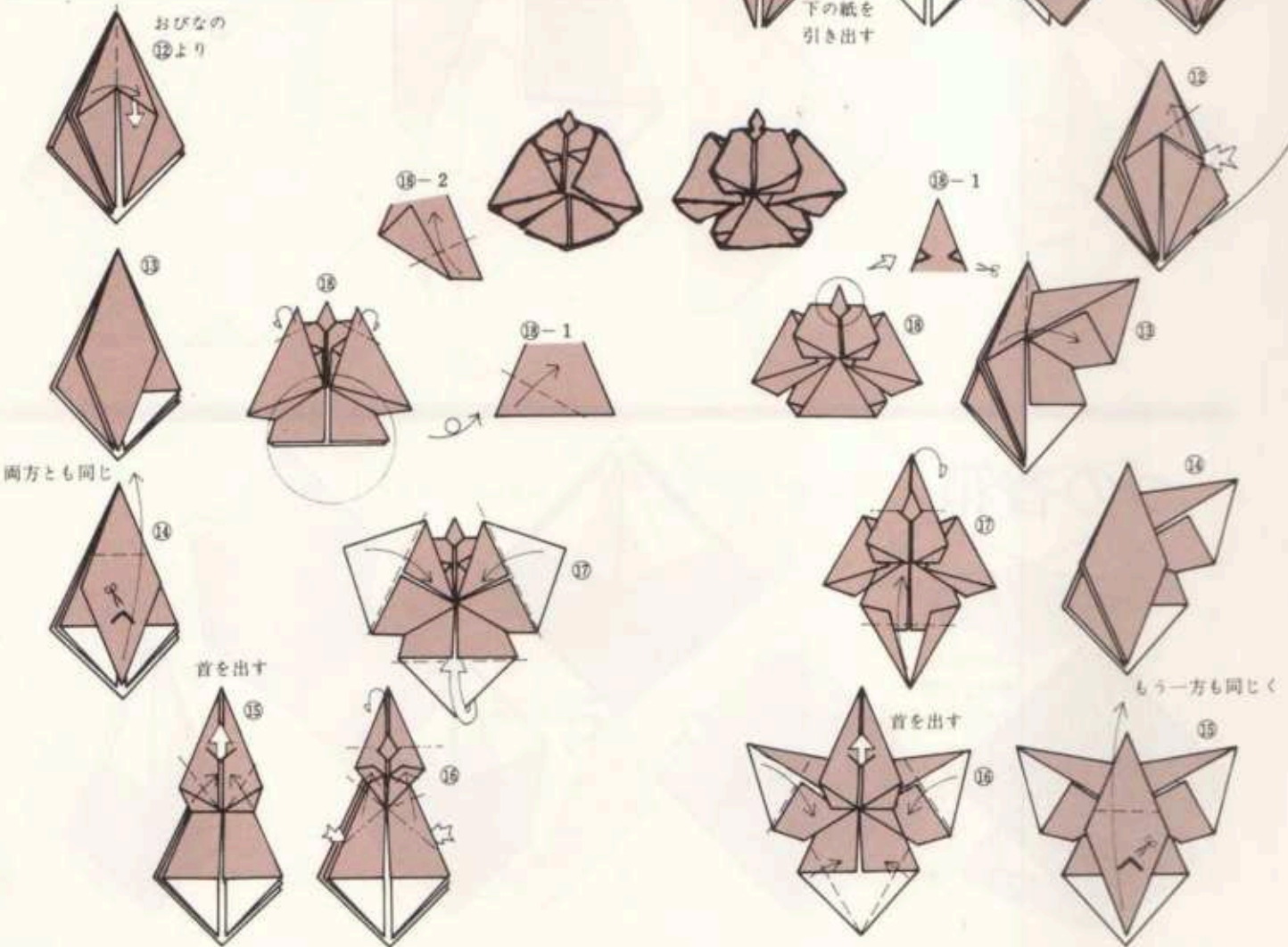
鶴の基本形より  
(49ページ参照)



鶴の基本形  
目まで折る

下の紙を  
引き出す

下の紙を  
引き出す



おびなの  
12より

両方とも同じ

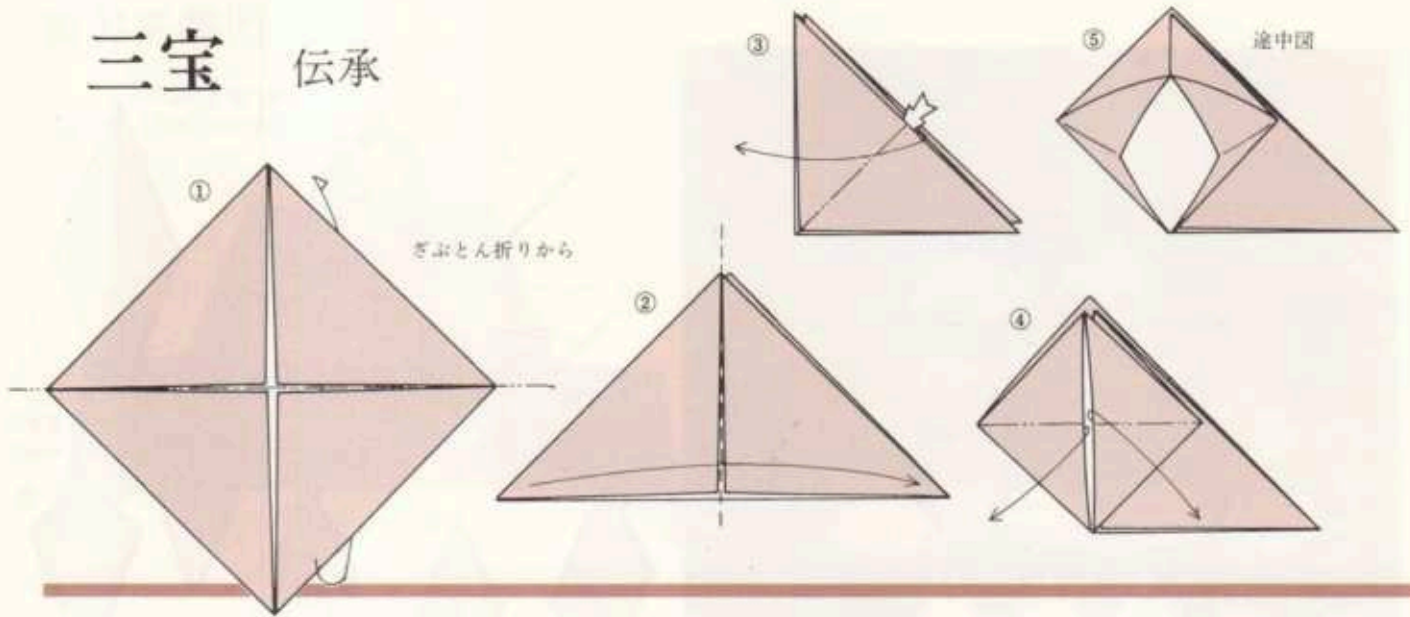
首を出す

首を出す

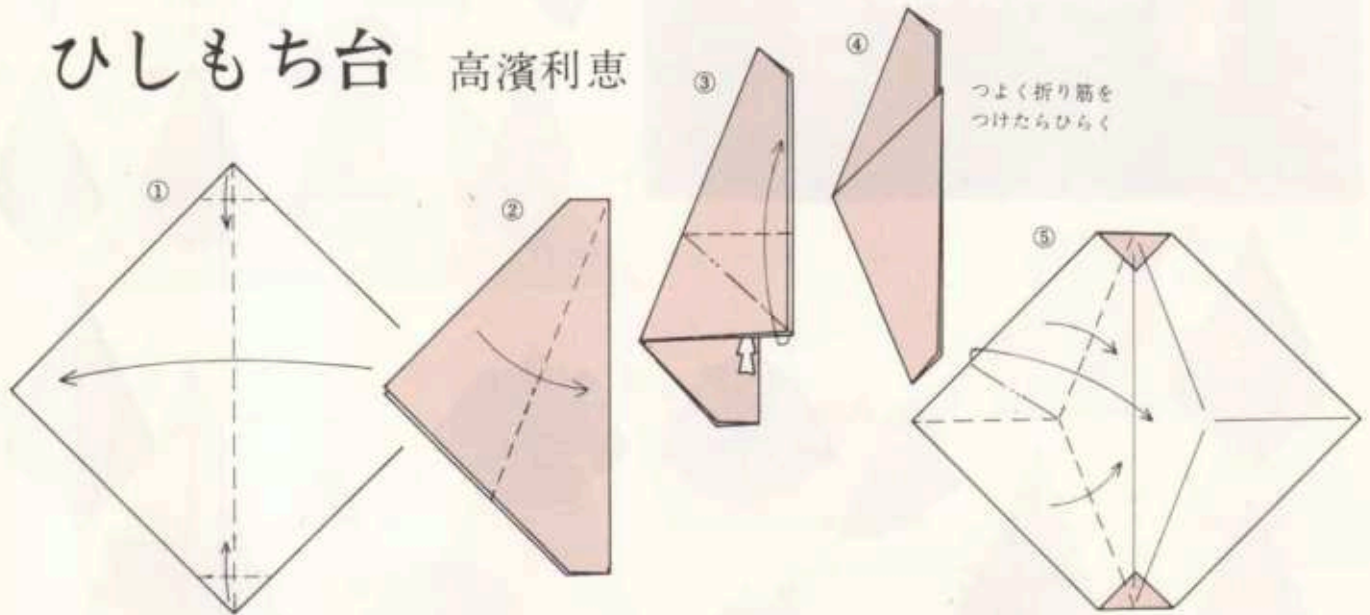
もう一方も同じく



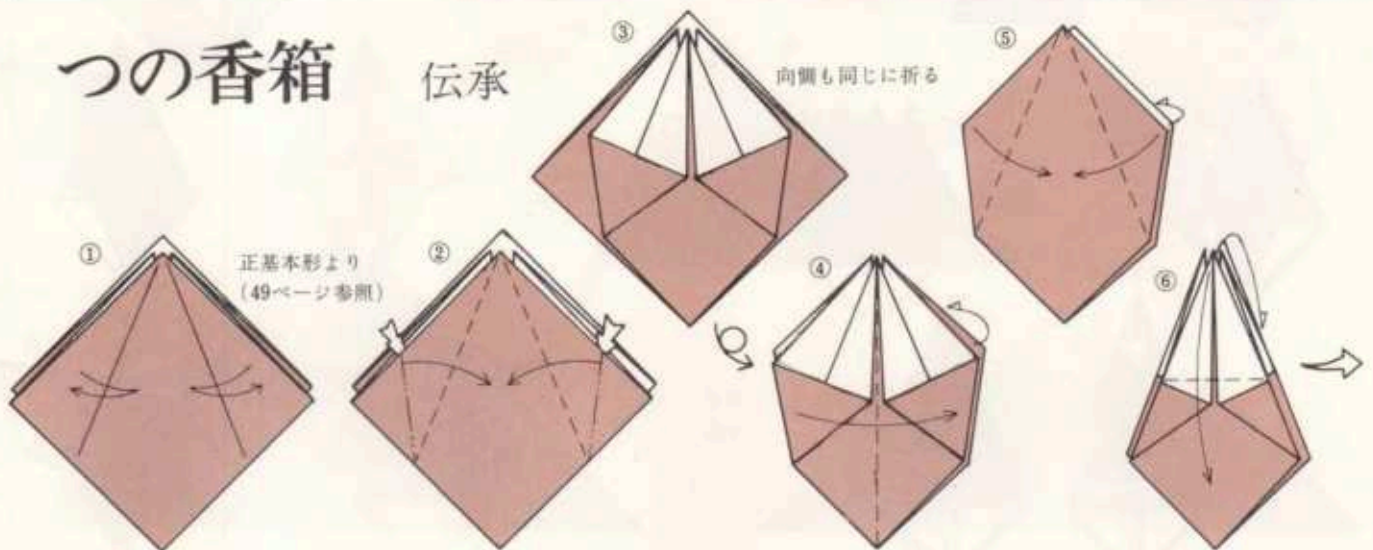
# 三宝 伝承



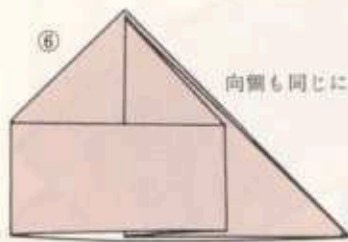
# ひしもち台 高濱利恵



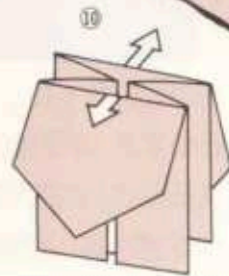
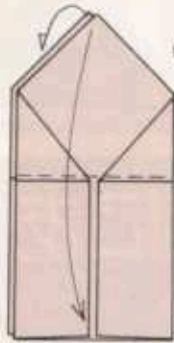
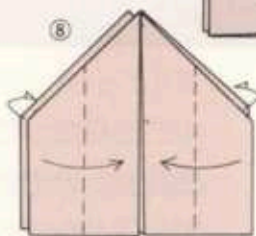
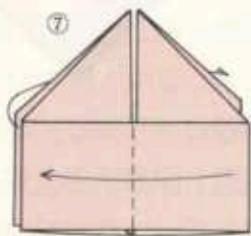
# つの香箱 伝承



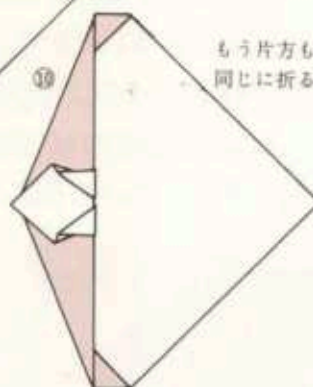
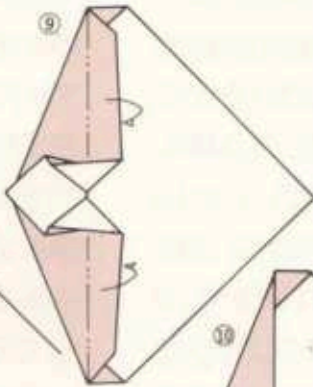
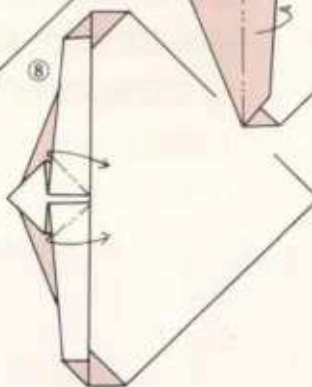
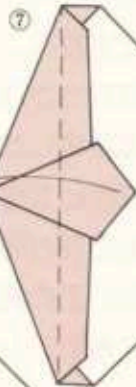
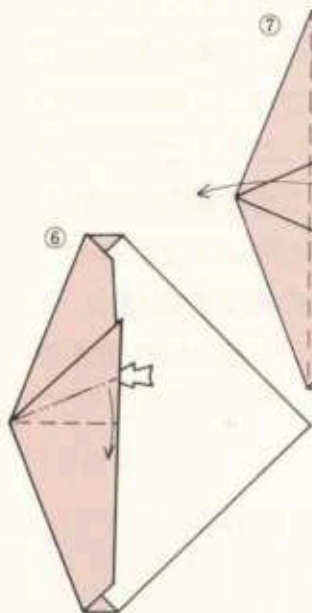
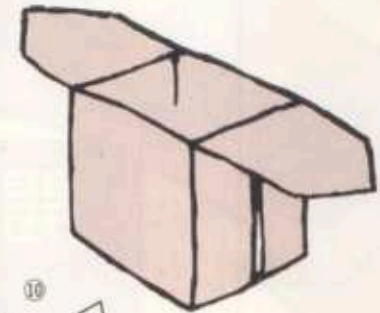




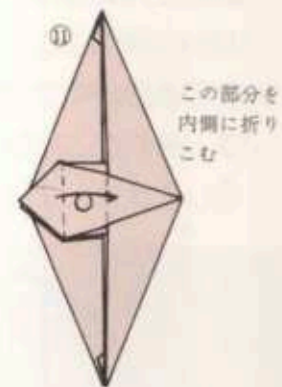
⑥ 向側も同じに折る



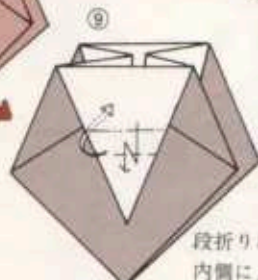
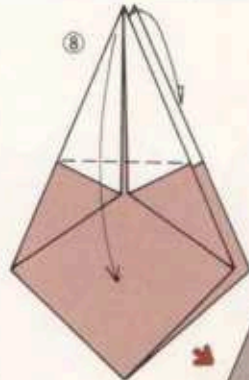
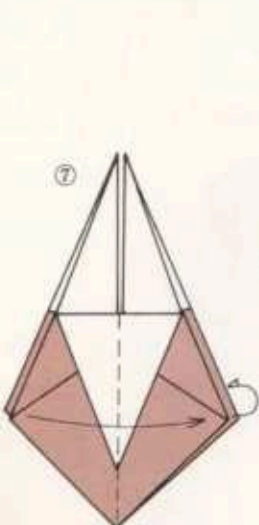
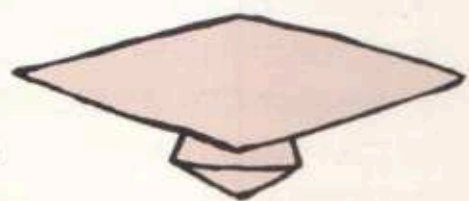
⑩ ひっぱり内側を広げる



⑩ もう片方も同じに折る



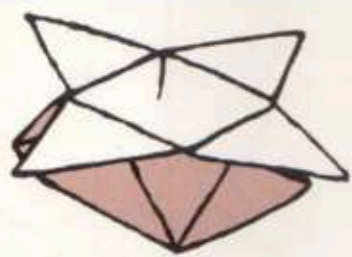
⑪ この部分を内側に折りこむ



⑨ 段折りにして内側に入れる



⑩ 内側を広ろげ形をつける





# 母と子の折紙教室

## 開校にあたって

福島大学助教授 大橋 浩也

折紙セミナーにカワって、今月号から母と子の折紙教室を開校することになりました。

セミナーの延長として考えていただいてもいいし、全く新しいものと考えていただいても結構です。セミナーはツリーを中心としてやってまいりました。いわば、折紙の系統を追ってきたといってもいいでしょう。そして、ツリーNo8までで、ほぼ最も基礎となる基本形についてはふれてきたつもりです。しかし、これで完璧というわけではありません。これからの課題は、まだまだあります。それを、この教室の中で少しずつ補っていくつもりです。それが、セミナーの延長といういみです。そしてまた、セミナーでほとんどふれること

のできなかった技法の問題があります。その問題を、お田さんや幼稚園・保育所の先生方が、子どもたちにどう教えていったらいいかといったこととからませてやっていくつもりです。それが全く新しい内容といったいみです。お田さん方や先生方が、折紙を教えられていて特にお感じになったこと、疑問に思われていることなどありましたら、どうぞお便りをください。教材としての折紙の可能性はきわめて広く深いものだと思います。

みなさんと一緒に、この教室を楽しく、そして充実したものに育てていきたいと考えています。





# 正方形を作ろう

市販されている折紙は、すでにきちんと正方形に裁断されていますが、新聞紙や包装紙あるいは広告の紙などで折る場合、まず正方形に切ってから折らなければなりません。長方形から正方形をつくる方法を、小学校の高学年になってもしらない子がいるそうです。これは、お田さんがきちんと教えてあげなければならないことだと思います。

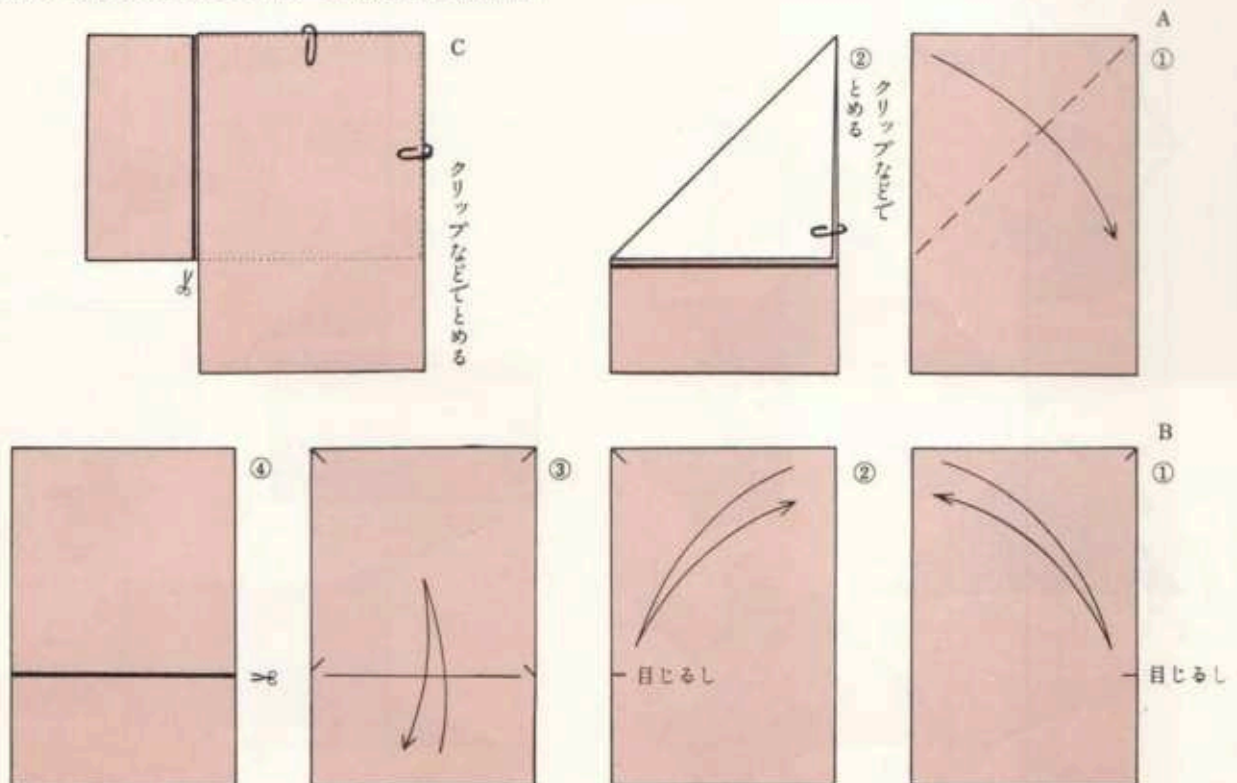
では、正方形のつくり方、㊸・㊹・㊺の三通りを紹介しておきましょう。㊸と㊹は、どちらも1枚の紙を正方形に切る場合ですが、㊸が最も簡単で一般的です。これくらいでしたら3歳児でもできるはずですが、ただ、折った方の辺とめやすとした辺とがきちんと重なっていないと正しい正方形にはなりません。それに、はさみて切っている間に、折重ねた方の紙がずれたりしますので、お田さんが、おさえてやるとか、洗濯ばさみかクリップでとめてやるかすれば、きつとうまくなります。はさみは、少し大きめの方が、直線切りにはむい

ています。はさみもどんどん使わせた方がいいのです。㊺の方法は、あまり折り筋をつけずに正方形をつくる時にもちいます。これは、幼児にはちょっとむずかしい方法ですから、お田さんがおぼえておかれ、必要なときにこの方法で正方形をつくってあげられたらよいと思います。

㊻の方法は、同じ長方形の紙が2枚あるときの正方形のつくり方です。これは、全く折り筋がのこりませんから、きれいな正方形ができます。しかし、上の紙と下の紙がずれてしまつては正しい正方形はできません。

やはり、クリップなどで2・3ヶ所おさえてやるといいでしょう。

㊸・㊹・㊺のほか、定規、ものさし、コンパスなどを使って、正方形をつくる方法がありますが、これはじょじょに学校で勉強していきます。ここでは、折紙の技法らしいものだけにとどめました。





# 正 確 に 折 る う

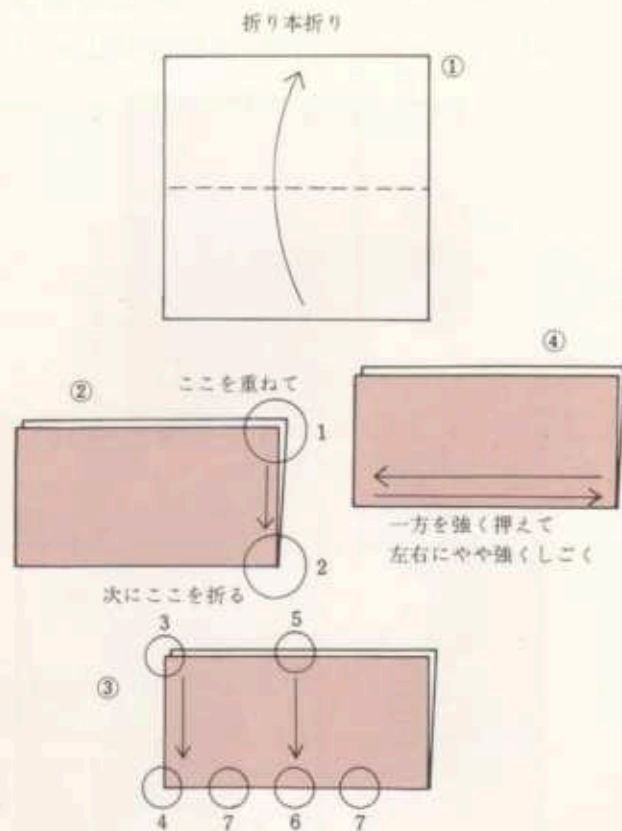
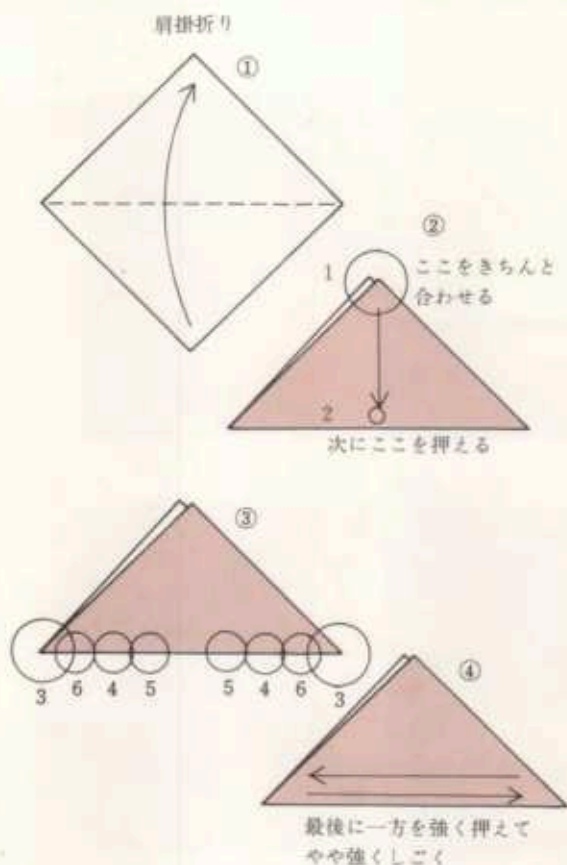
折紙は、ほとんど肩掛折り（3角折り）か折り本折り（長方形折り）のどちらから出発します。まず、肩掛け折りを正確に折ってみましょう。図のように、角と角をきちんと合わせます。そして、その角からまっすぐおろした位置の折り筋を、指でおさえて強くつけます。合わせた角を、絶対にずらさないようによくおさえながら、次にとがった両端をおさえ、さらに中間のところを何ヶ所かおさえおき、最後に一方をおさえおいてしずかに紙をしごくようにして、折り筋をつけます。幼稚園などでは、折り筋をつけさせるために、アイロンがけなどといって、何度も何度もこするようになっていますが、これはとてもだじなことです。折り筋がきちんとできていないと、次の折りがうまくいかないからです。私は、指のやわらかい先よりも、爪の表面でなぞる方がいいと思

っています。また少し厚い紙でしたら、丸みのある陶器などでしごくぐらいが、正確にしっかりと折れます。

次に、折り本折りをやってみましょう。これは、一方の角と角を合わせてまず折り、次に、別の方の角と角を合わせて折り、最後にまん中を合わせて折るようになります。そして、ところどころ押さえるようにして折り筋の道をつくり、最後に何度も何度もアイロンがけをするといいいのです。

これらのことは、非常に単純なことです。がきちんと指導しておかないと、いつまでも折紙が、きれいに折れません。

角を合わせること、何ヶ所か押えて折り筋道をつくること、そして最後に、はっきりと折り筋をつけることです。



# 中わり折り と かぶせ折り

中わり折りとかぶせ折りは、最も折紙では、ひんばんにててくる基礎的な技法です。折紙が上達するためにも、この技法になれることがたいせつです。

扇形基本形から、水鳥をつくる方法で、この中わり折りと、かぶせ折りを練習してみましょう。

まず扇形を2つに折ります。そうすると、先のとがった不等辺3角形ができます。その3角形のいちばん長い辺を、下(水面)にするか、上(背)にするかによって、あとの首と頭の折り方が全部ちがってきます。

中わり折りの方が、やさしいので、はじめ④のように長い辺を下にすることにしましょう。

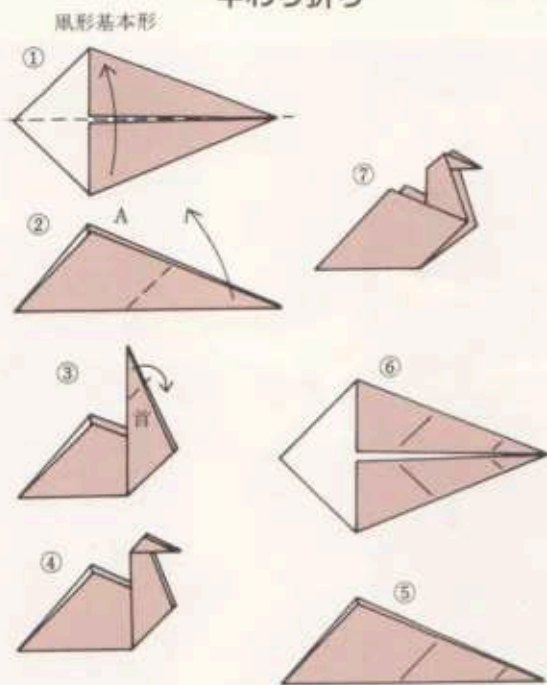
首の方向、長さ、頭の向き、長さを考えて、ふつうの折り方で、まず折ってみましょう。(なれてきたら、この段階は不必要です。)折り筋を強くおさえてから、もとにもどし、もう一度、扇形基本形へ中途まで戻すようなつもりで、半開きにしながら、折り筋にそって中にわりこむように折っていきます。折鶴の頭は、この方法で折りますから、

折鶴のできる子でしたら、すぐできるはずですよ。

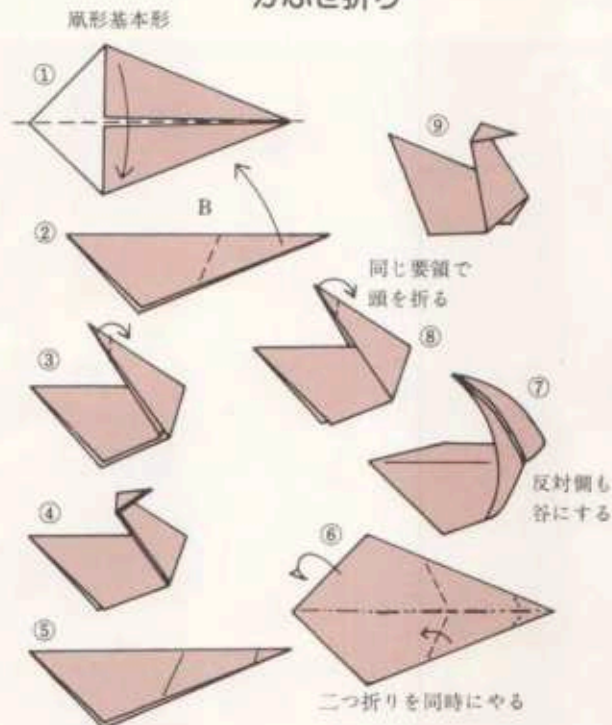
しかし、こうしてできた水鳥も、机の上に立てることができません。壁面にとめたり、画用紙にはったりして飾るほかありません。そこで次に、かぶせ折りの⑨の方法が、どうしても必要になってくるのです。

自分のイメージに合わせて、首や頭をふつうに折るところまでは、前と同じですが、次の段階が少しむずかしくなります。これは、大人でもまごつくところですので、お母さんが子どもさんに教えられるとき、特にていねいに教えてあげてください。もう一度扇形基本形までもどして、まず、首の折り筋にそってからだをつつむように折りあげるのです。最初の折り筋のうち、一方だけが谷線になっているはずですよ。その谷線をそのままいかにして、からだを不等辺3角のときのように折るようにすると、一方の山線になっていた折り筋も自然に谷のようになっていきます。それを、きちんと折って谷線にしてしまうと、かぶせ折りが完成します。頭の部分も、全く同じですよ。

## 中わり折り



## かぶせ折り







文=飯村悦男 写真=熊田憲明 折紙=中野光枝(協力) ひので幼稚園 〒356 埼玉県上福岡市西原 1-1-18

日頃、  
児童画の指  
導を通じて、幼児  
期の子供たちと接して  
いる私は、折紙そのものの  
知識や指導の経験にはとほし  
いのですが、幼稚園や絵画教室で  
は、折紙をモチーフとした工作をたび  
たび行なっています。

ほとんどの子供たちは入園前に折紙を手  
にして親しみをおぼえています。幼児期の  
造型教育にあつて、折紙ほど身近かなところに  
表現の糸口をみいだす素材も少ないといえます。

ここに紹介しますのは、紙ぶくろという日常的な  
素材を利用してつくる楽しい工作です。折紙という  
にはおよばぬかもしれませんが、幼児期の子供たち  
に折紙のきまりから「こういったものも創れる」と  
いう意味でカリキュラムにとりいれてみました。

子供たちと折紙の  
出会いは、色彩の認識からはじまり、  
やぶく、ちぎる、まるめるなどの行為から、折り  
たたむ、ひらく、うらがえすという計画的な造型に  
発展し、飛ばす、浮かべるなどの遊びの領域にまで  
達し、表現と遊びの二重の喜びを得るにいたります。  
すでに印刷されたり、折り目のついた1枚の紙ぶ  
くろや新聞紙などは、高価な紙や教材とことなり、  
自然に創作にうつれるさらくさがあります。空気を  
入れてふくらんだ形から、自由な発想によって、つま  
んだり、折ったり、切ったり、貼ったり、クレヨ  
ンや絵の具で色をつけたりと積極的にとりくめる最  
適の素材です。

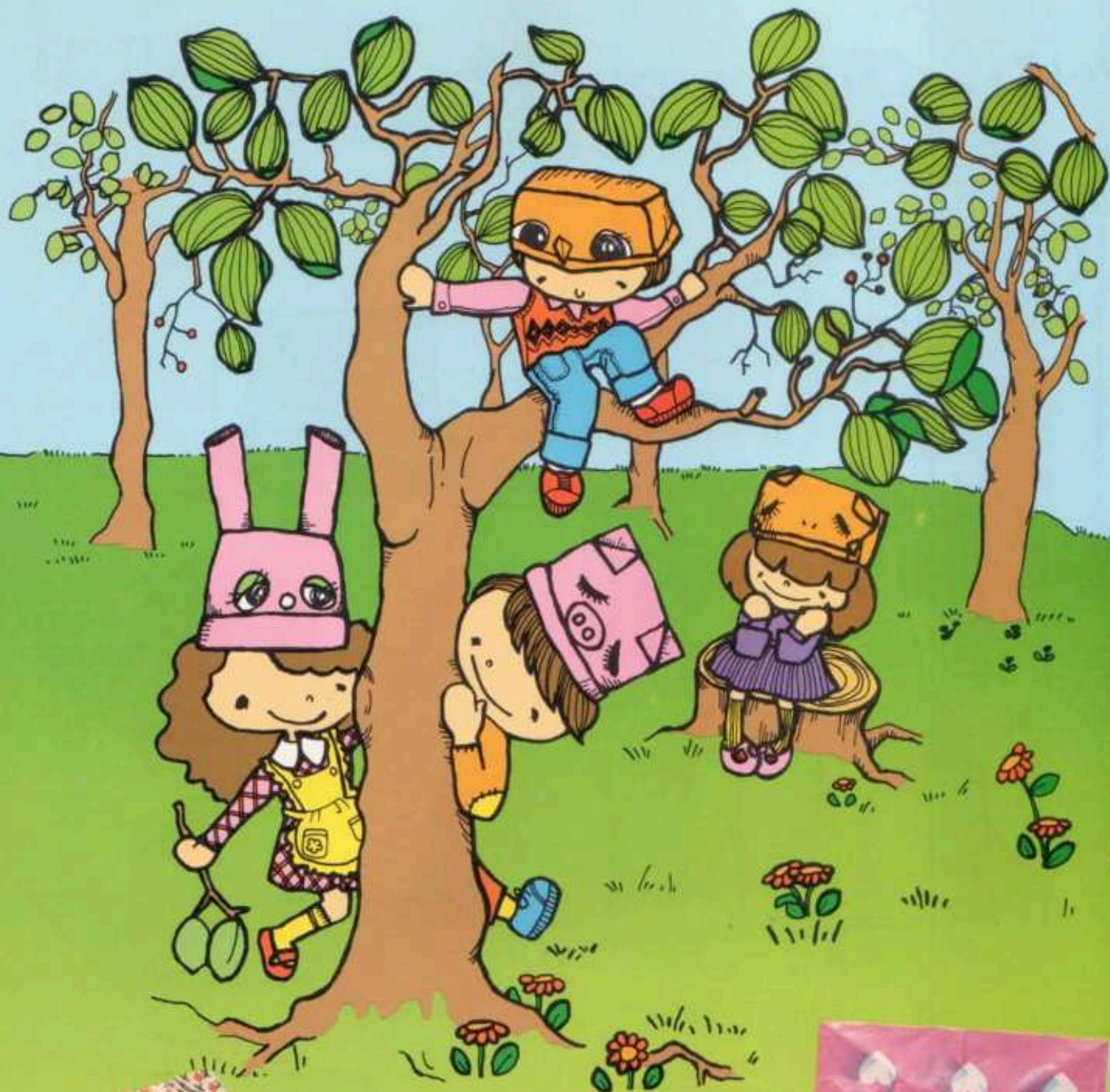
こういった工作の中では、折紙の基本的な折り方  
も実践的に応用され、今までうまくできなかった「中  
わり折り」や「かぶせ折り」も、言葉以前に形とし  
て身につけることができたようです。

折紙の本当の創造性は身近な生活から生まれるの  
ではないでしょうか……。子供がこんなことを言っ  
ていました。「紙ぶくろと紙ぶくろうは同じかな？」

1枚の紙ぶくろから、今1羽のふくろうが飛び立  
ちました。





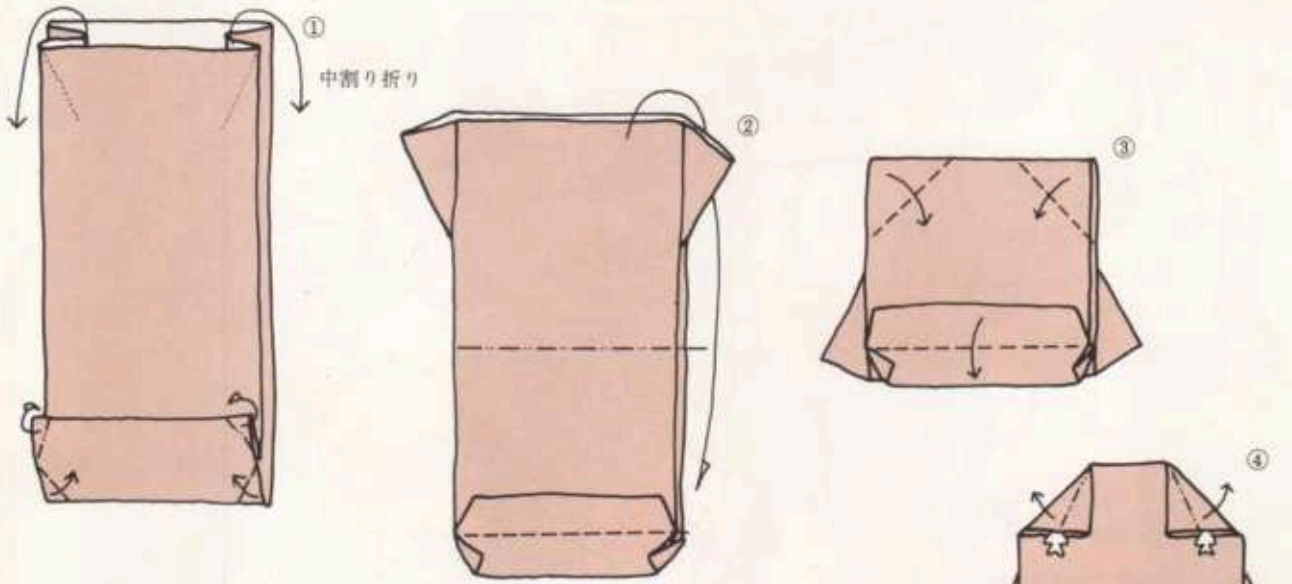




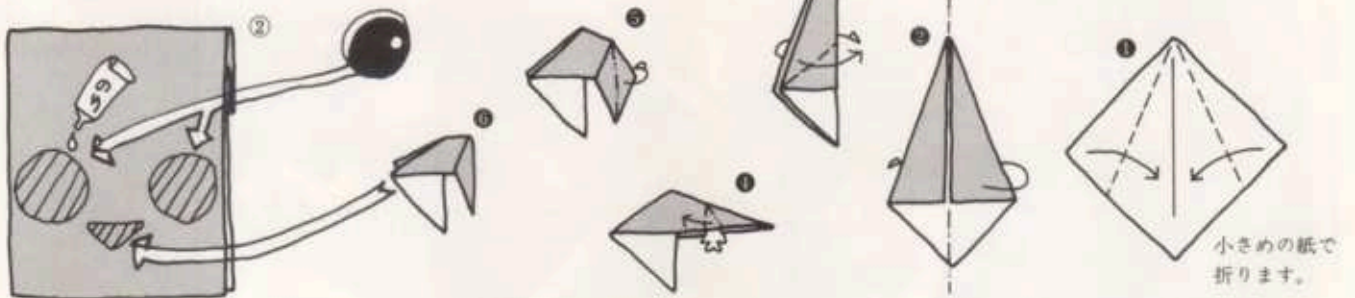
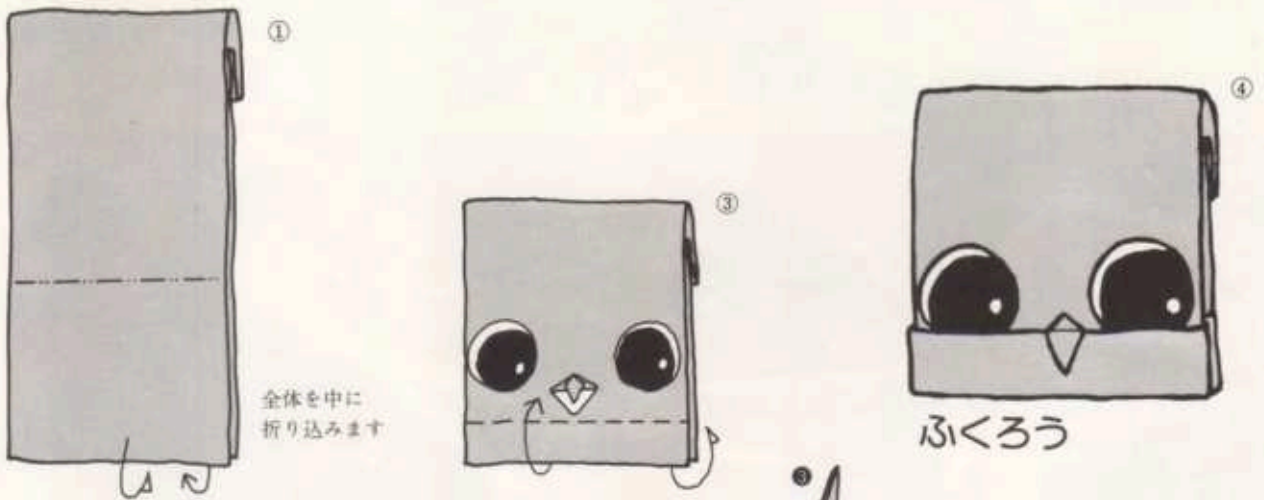
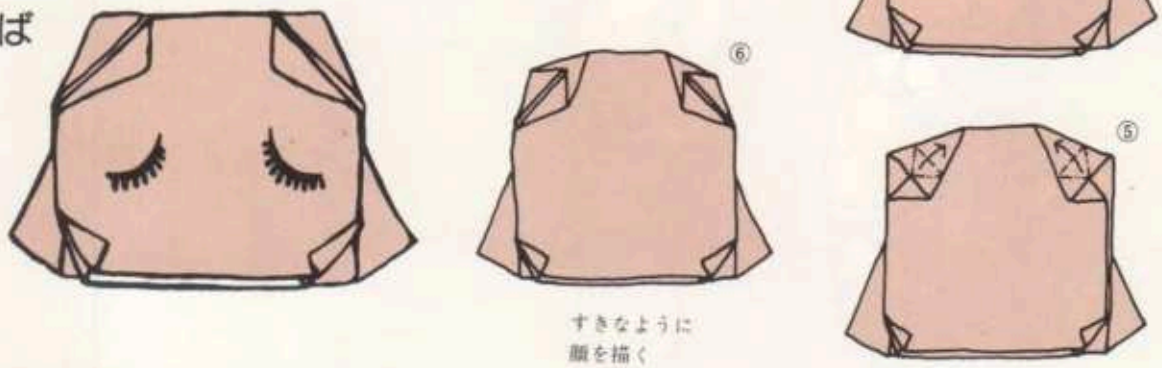
# かば・ふくろう

いらない紙袋を使って折りましょう

中野光枝

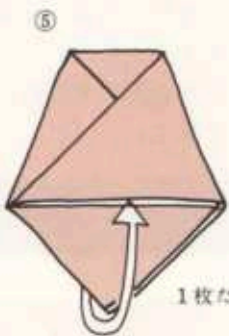
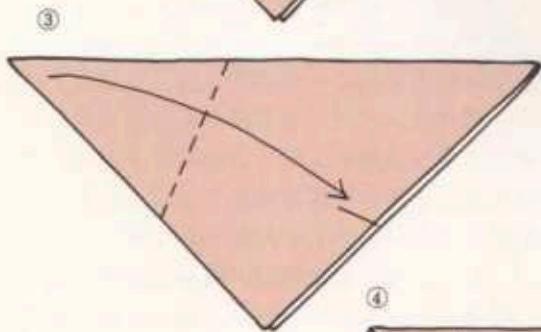
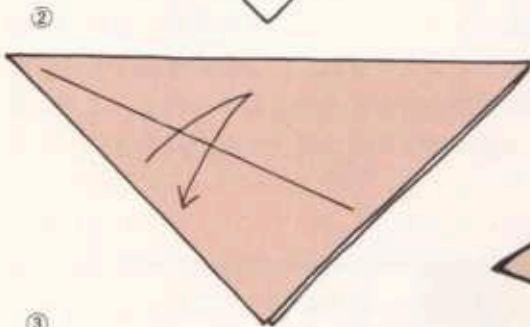
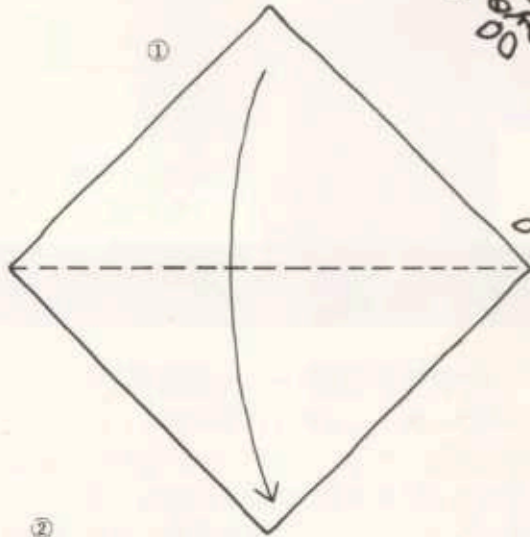


かば

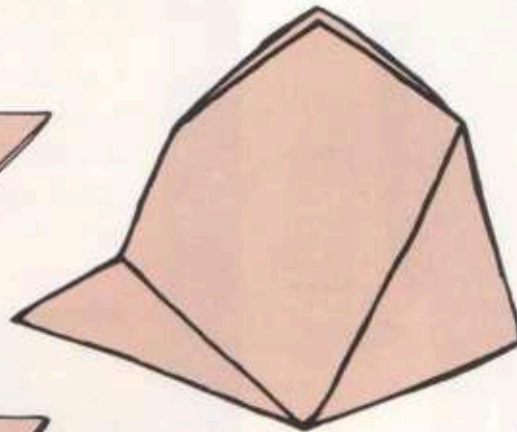
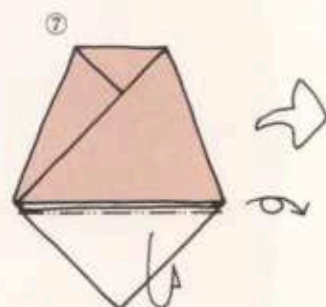
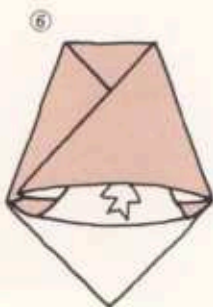
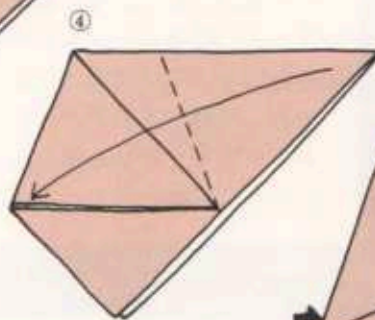


# ぼうし

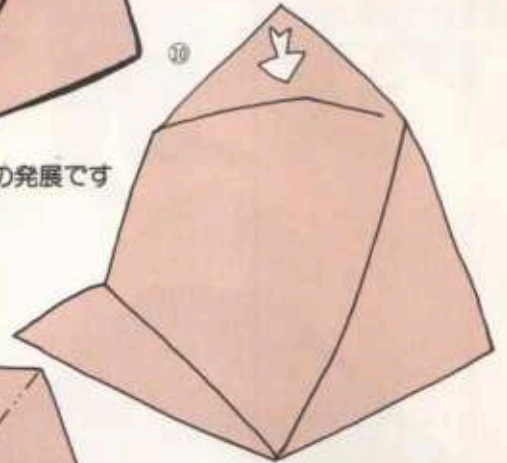
伝承



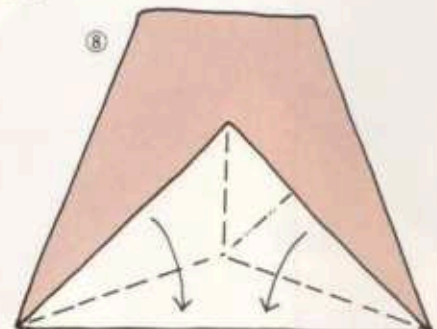
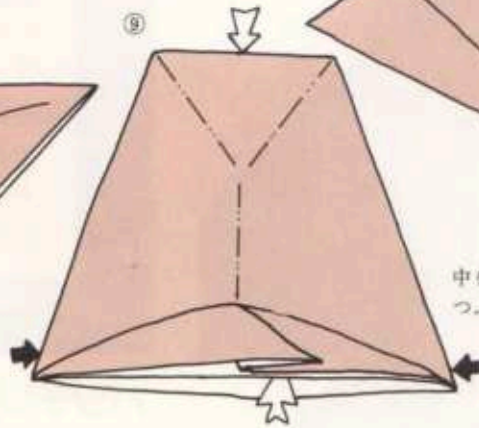
1枚だけ差し込む



このぼうしは紙コップからの発展です



中をひろげて  
つぶすようにします。



つまむようにして折る

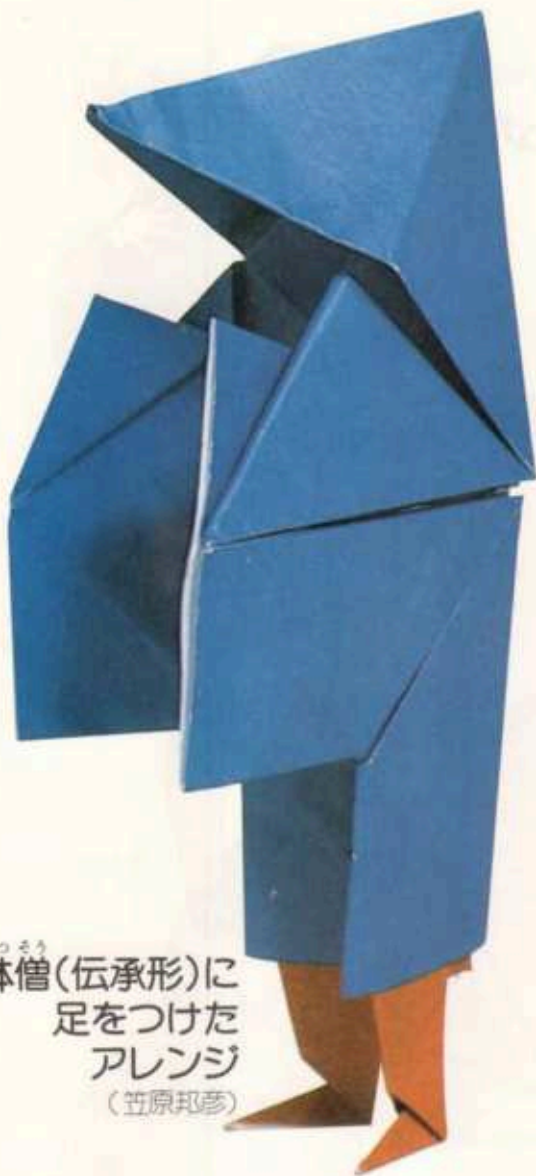


赤ちゃん



奴さんの発展  
(千野利雄)

たくはつそう  
托鉢僧(伝承形)に  
足をつけた  
アレンジ  
(笠原邦彦)

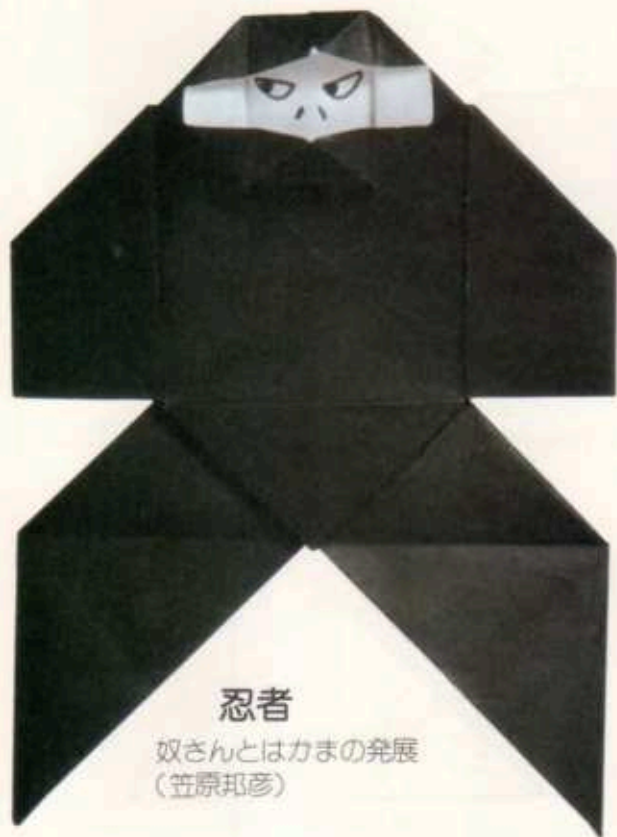


伝承作品講座——笠原邦彦

おりがみは、例えてみれば民謡に似ているように思えます。いつ、どこで、だれが唄い始めたものかは判らなくとも、人々の心に美しい情緒をもたせてくれる歌詞やメロディーは、何代も唄い継がれて飽きられることはありません。これが採譜されて、正確な保存をはかられるようになったのは、ごく近世のことだと聞きますが、現代歌謡の誕生と同じ頃ではないでしょうか。

さて、おりがみでも同様に、いくつかの選ばれた作品が、何十年、何百年にわたって折り継がれて今に残っていますが、実際にはこれに何十倍する形が生み出されていたことでしょう。それは、永い時の流れが厳正な批評家になって選択を加えた結果ともいえます。現代は、素材である紙が急速な発達と普及を遂げたことを前提として、これに工夫の為の理論が整備され、工程の図解記録法の普及も加わって、新作の誕生と発表はまさしく驚異的な上昇ぶりであります。しかし、はたして新しい伝承作品となって残るものはどれだけあるだろうか考えるに、瞬時そのスピードはにぶって感じられます。新作の追求は大いに奨励されるべきであります。そのバックボーンとしての伝承形の正しい保存と再発見の努力、それも又同時に必要であると思えます。

おりがみ  
今、むかし



忍者

奴さんとはかまの発展  
(笠原邦彦)

バッチリカメラ



閉じている所

はかまの発展  
(作者不詳)



●読者のみなさんへの問題  
写真のように弥次郎兵衛の顔の部分だけ紙裏をだすのにはどうしたらいいでしょう。

今、ここに伝承形の再評価の講座を開始するにあたり、まず前記の主旨のあることをご理解いただきたいと思います。そして又、伝承形に対して、現代の視点からの改良改作の実践結果も、あわせて示してまいりたいと思います。民謡に、正調と現代風のアレンジメントのあるのと同じです。できますなら、ここへさらに皆さま方の個性的節回しのものが加味されて、先人の残してくれたこの童心と美の世界が、より一層の高みへと飛翔してほしい、とも願っています。

## 第1回 奴さんとはかま

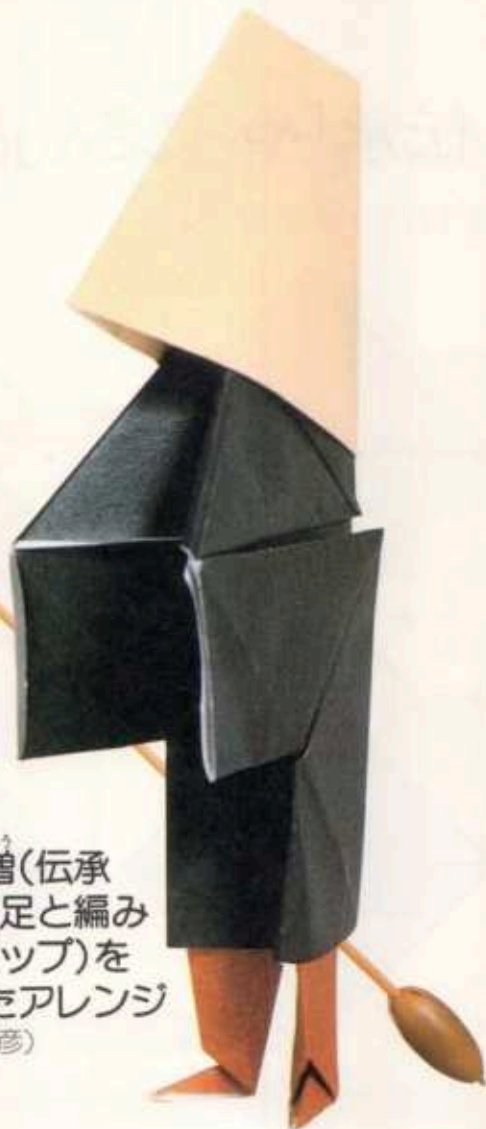
「おりがみ？ あっ鶴とか奴さんのあれのこと。」おりがみ好きでない人もきまってこれだけは知っている。つまりおりがみの代名詞ともいうべき作品です。しかし、「奴さん」「はかま」共に、現代の子供や海外の愛好者には説明がむずかしい作品です。しかし、これが赤ちゃんとか、カメラとか、宇宙飛行士となれば、現代にも生きてくるのではないのでしょうか。又折りの技術面からは、「ざぶとん折り」の繰り返しから生ずる造形の例として必須のものでもありません。

### バッチリカメラ



開いている所

こじろう  
虚無僧(伝承形)に足と編み笠(コップ)をつけたアレンジ  
(菅原邦彦)



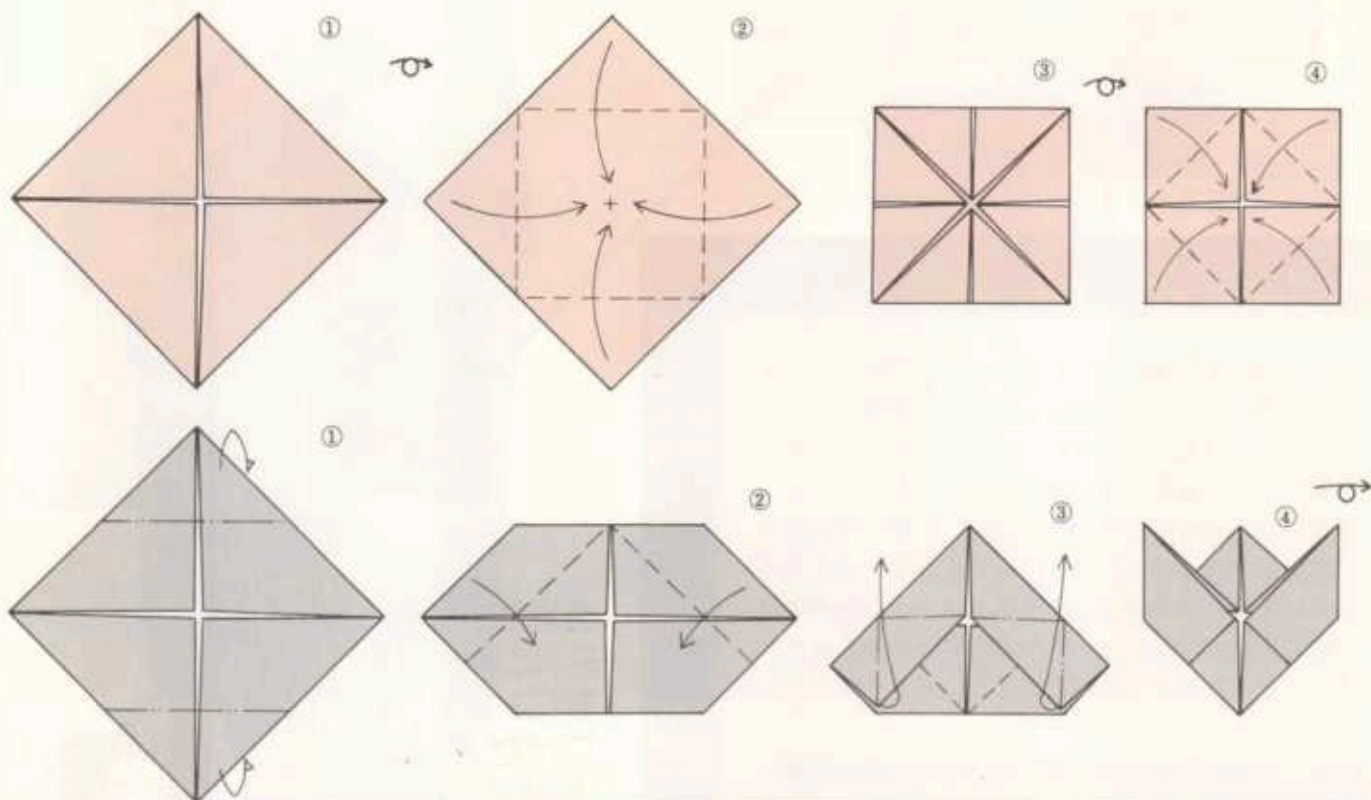
### 宇宙飛行士



はかまとはかまの発展(菅原邦彦)

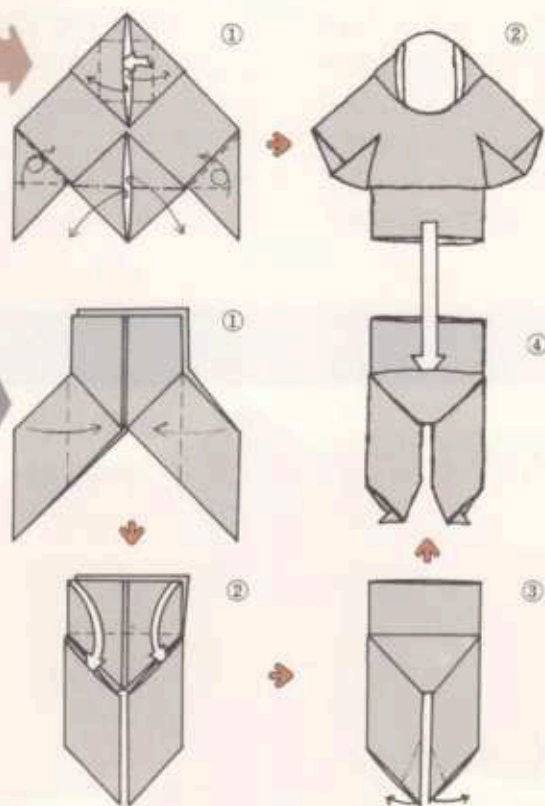
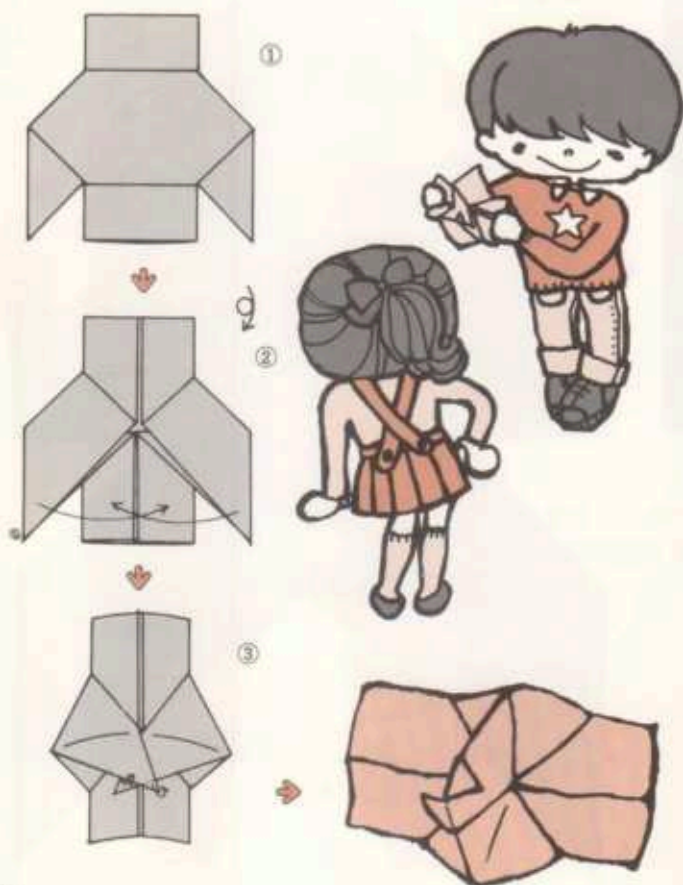


# 伝承「やっこさん」とそれからの発展

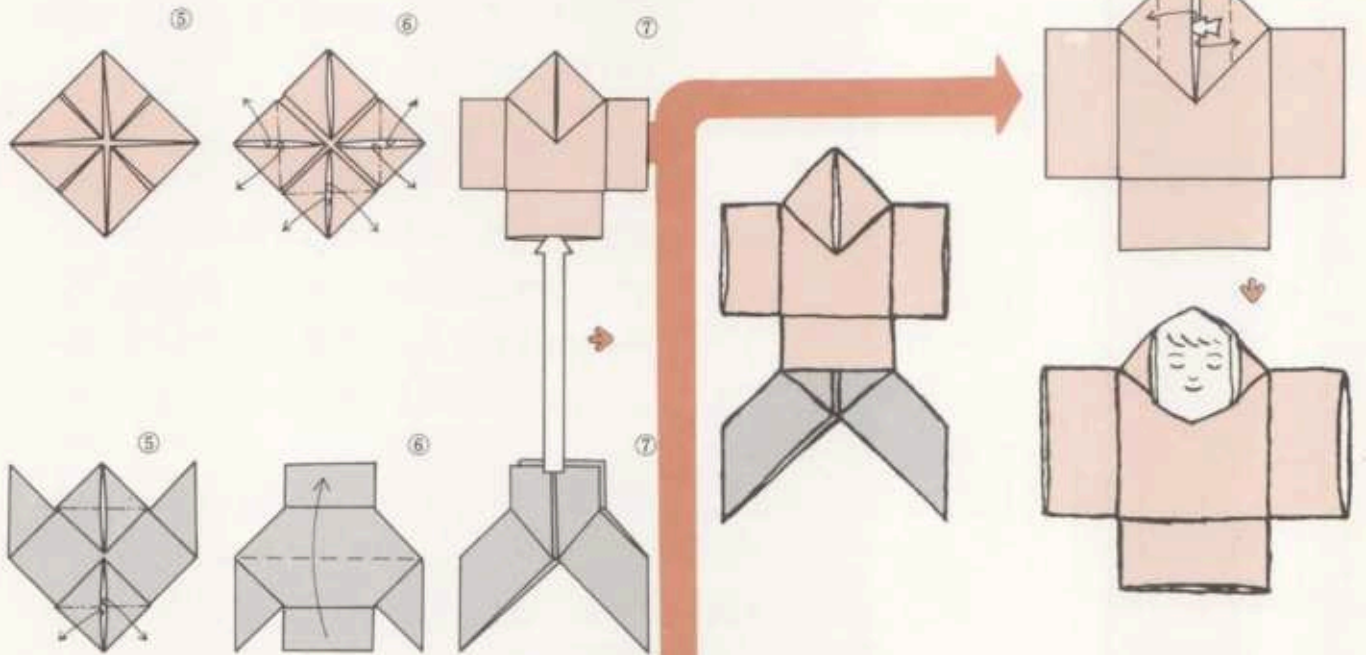


カメラ 作者不詳

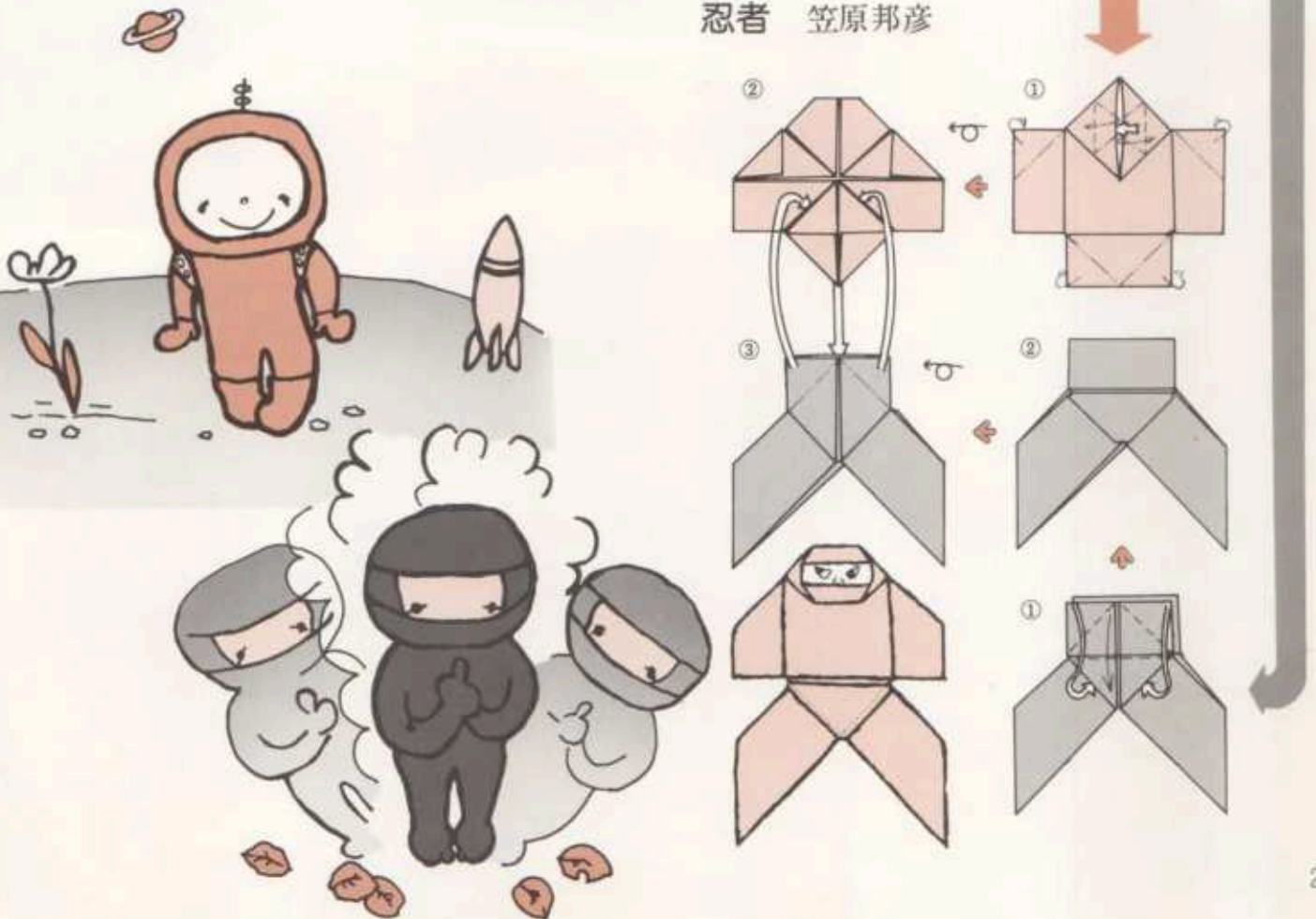
宇宙飛行士 笠原邦彦



赤ちゃん 千野利雄



忍者 笠原邦彦





# 野の馬

文=今江祥智

ペーパークラフト=寺田松雄

折紙=石井英子

太郎の家には、すばらしいびょうぶがある。とうちゃんは、いつも、こいつは先祖代々のたからものでなあ……といい、年に1度の、花まつりのときにしかかざらない。

6つのとき、太郎は、このびょうぶをはじめ見て、ひとめで気にいつてしまった。

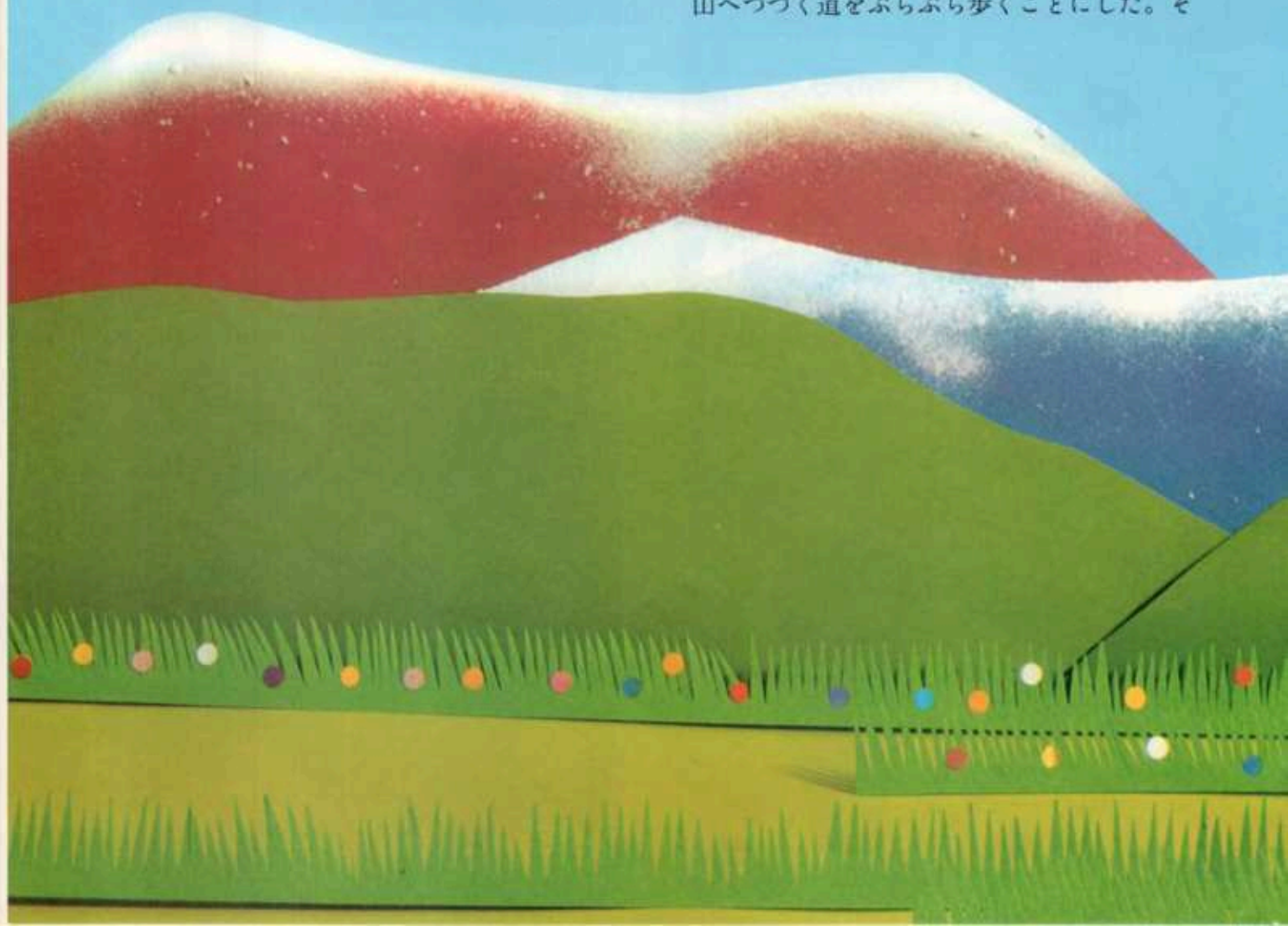
びょうぶにかかっているのは、なんともみことな1頭の馬。あまいくりいろのからだには、力があふれていて、いまにもびょうぶからとびだしてきそうだった。ひきしまった腹のあたりをなでると、じつりと汗ばんでいるようにも、思えるほどだったし、そのやさしい目は、ほんものの馬の目のように、太郎をまっすぐに見つめていた。

太郎はその日、半日ほども、びょうぶの前からはなれなかった。

そんな太郎に気がついたとうちゃんは、一さあさあ、外へ出て、友だちとあそんでくるんだ。子どもに、こんな絵がわかるかよ。と、追いたてるのだったが、ほんとは、もしも太郎がびょうぶに、らくがきでもしたらおごごとだと、心配していたからにちがいがなかった。

けれど、あそんでこいといっても、このあいだまでなかよしだったとなりの恵子ちゃんがひっこしてしまっただけじゃ、だれとあそべばいいのだろう……。

しかたなしに、太郎は、おもてへでると、山へつづく道をぶらぶら歩くことにした。そ





していつか、ひとりてに、太郎は草をつんでいた。心のどこかで、あの馬のことをかんがえていたせいにちがいない。あの馬に食わせてやればなあ……と思っていたからにちがなかった。

太郎が家にもどったときには、あのびょうぶは、もう、太郎の知らない倉のおくへしまいこまれていた。そうなっては、あの馬にあうのは、つぎの年の花まつりまで、おあずけだった。

だが、太郎は、馬のことがわすれられなかった。毎晩のように、あの馬のゆめをみた。ゆめのなかではいつも、太郎はあの馬にのって、海のようにひろがる草原を、かけているのだった。おちないように——というよりは、2度とはなすまいと、たてがみを手首にしっかりとまきつけて。

\*

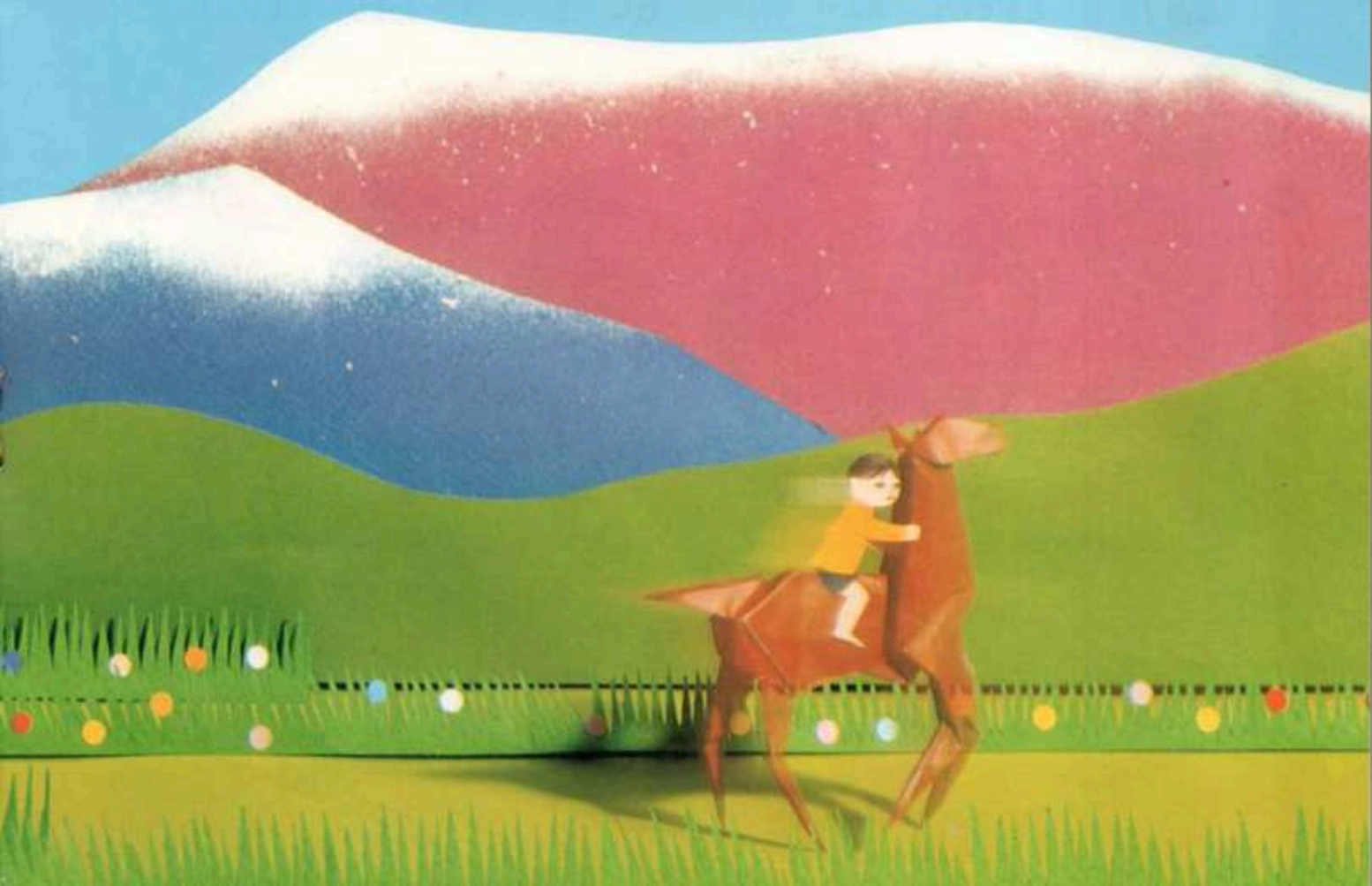
あくる年の花まつりの日がきて、びょうぶ

がまたかざられると、こんどこそ、太郎は1日じゅう、びょうぶの——いや、あの馬の前からうごかなかった。馬は、ゆめの中とおなじいろ、おなじかがやきですくと立ち、まっすぐに太郎を見つめていた。太郎をのせて走れないのが、ほんとうにざんねんそうだった。

そしてそんな馬を、こんな、白1色の背景の中においておくのは、太郎には、いかにも、かなしかった。

太郎は、まわりにだれもいないときに、つと立つと、じぶんのへやへいって、みどりいろのクレヨンをもってきた。そして、馬のうしろに、ひといきに太い線をひいてやった。みどりの地平線をかいてやったのだ。こうすれば、馬も、野におかれたような気もちになるにちがいない、と思ったのだ。

そうして、もういちど馬をながめなおしてみると、気のせいか、馬の目にいのちがとまり、からだぜんたいが、いきいきしてきたよ





うに見えた。明るいまどりの線がひろがって、やわらかな草の海に変わり、その上をおだやかな風がふいてきて、馬のたてがみをなでてゆくように見えた。太郎は思わず手をおぼして、馬の首のところにさわった。

そのとたん、ばかもん！ という怒声と、とうちゃんの、でっかいげんこつがとんできて、太郎は、びょうぶの前からすっばされていた。

とうちゃんは、太郎をにらみつけながら、一ご先祖さまのばちがあたっど。……ま、上のほうに線をひきよっただけだて、そこんとこをはりかえりや、なんとかおさまるかな。と、ぼやいたが、すぐに太郎を倉へ入れた。罰として1晩ここでねること、むろん、ばんめしヌキだというわけだった。

あの馬にいいことをしてやったのに……としか思っていない太郎は、どうして倉へいられるのか、ばんめしヌキにされたのかわからず、ただくやしくてなみだをこぼした。

それから、思いきりあばれてやった。けれ

ど、とうちゃんが、よほどしっかりいつけてあったにちがいない。だれも倉へやってくるしてくれなかった。そしてそのうち、太郎はつかれてねむってしまった。

ま夜なか、太郎がぼんやり目をさますと、倉の高いまどから、月の光がさしこんでいた。このあかりをたよりに、太郎は倉じゆうをさがしはじめた。あれほどだいじにしているびょうぶのこと、修理に出すまでは、もしかすると、この倉のどこかへしまいこんであるかもしれない、と思ったのだった。

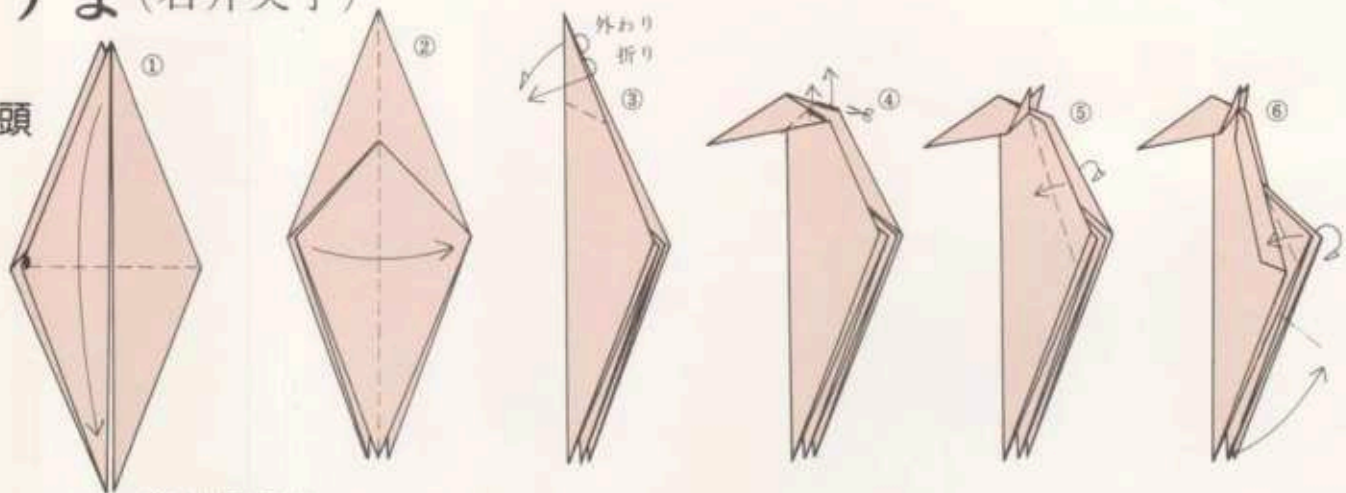
びょうぶは、倉の2階のすみに、そっとしまわれていた。太郎は、じぶんの背よりも高いびょうぶを、やっとのことで、月の光の中へひっぱりだした。青い光の中で、馬はひっそりと太郎を見つめ、太郎は、その前に立ちつくした。

どのくらい、そうしていただろうか。

ふっと、ほおにかかる風をつめたさに、太郎は目をあげた。あの高いまどからふきこんだ風ではなかった。太郎は、まさかと思いな

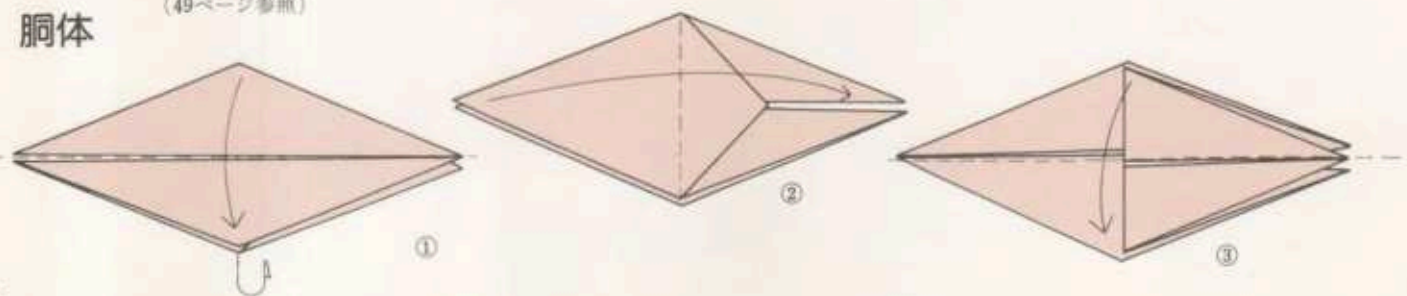
## うま (石井英子)

頭

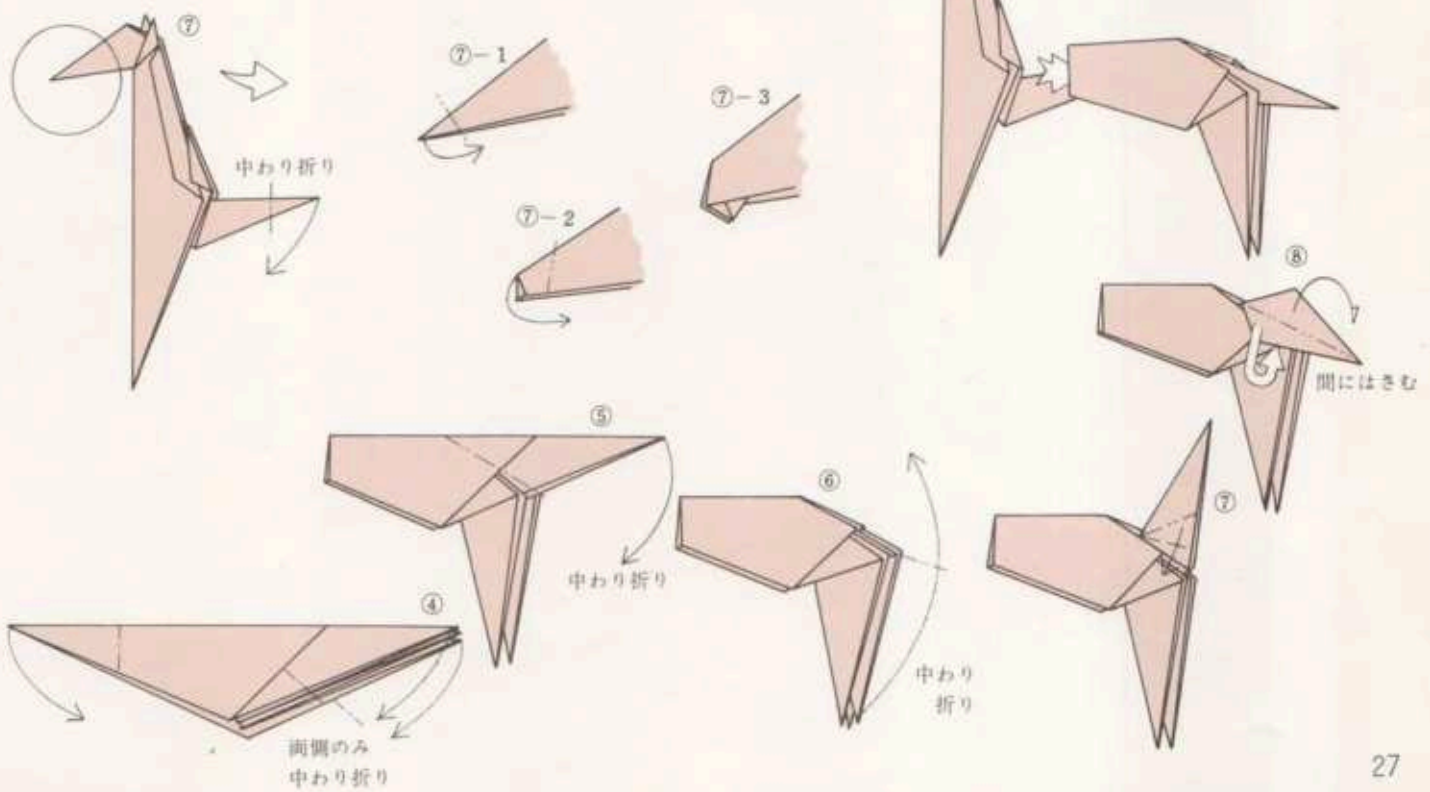


鶴の基本形Iより  
(49ページ参照)

胴体









がら、馬のたてがみに目をやった。

ゆれているのだ。馬のうしろにずっとひろがった、野のむこうから、ふいてくる風にふかれて、馬のたてがみが、ふうわりと、なびきはじめていたのだ。

〈よかった！〉

太郎は、馬の首に手をやった。すると、たしかに、手ざわりがあるのだ。なまあたたかい、ほんものの馬の手ざわりがあり、こまかな毛が、びっしりとはえているのがわかったのだ。それどころか、そのとき、馬のはいさが、太郎の耳のうしろをくすぐったのだ。馬のあしもとの草がゆれてにおい、馬が

うごいた——いや、生きているのだ。

太郎は、あの、毎夜見つけたゆめの中でのように、思いきり地をけって、馬の背にのった。手首にたてがみをまきつける。そして、かるく腹をけってやると、馬はそのまままっすぐに、びょうぶのなかの野にむかってかけだし、やがて、くりいろの風になって走りはじめた。

風のおいも、草のかがやきも、馬のすばらしさも、なにかも、太郎がゆめみたものとおなじだった。うれしさに、大声をあげる太郎をのせて、馬はそのまますいこまれるように、野のはてに消えていった……。





あくる朝、もうよかろうと顔をだしたとうちゃんは、二重におどろいた。太郎のすがたがなく、そのかわりみたいに、しまいこんだはずのびょうぶが、倉の2階のまん中へひきだされているではないか。とうちゃんは、一気に倉の2階へかけあがった。

そんなとうちゃんを、びょうぶの中から、太郎はじっと見つめていた。そして、とうちゃんが、びょうぶの前に立ったとき、ゆっくりと馬の頭をめぐるせて、草原のむこへ、馬をかけさせはじめた。すこしずつ、すこしずつ早く……。

—太郎！

とうちゃんは、じぶんの目と頭が信じられないながら、声をあげた。

けれど、太郎はけっして、ふりむかなかった。馬は小気味よい早さで走って、みるみるうちに、草原のむこうに消えていってしまった。そしてびょうぶには、一面、風にそよぐ草原だけがのこり、ぼうぜんとして立ちつくすとうちゃんの前で、やがて、草の葉のそよぎはとまり、かがやきが消えた。それから、ふっと、みどりいろのひろがりも消えると、あとには、太郎が力いっぱいひいた、みどりいろの、クレヨンの線だけがのこっていた。





# 暮らしをかざ

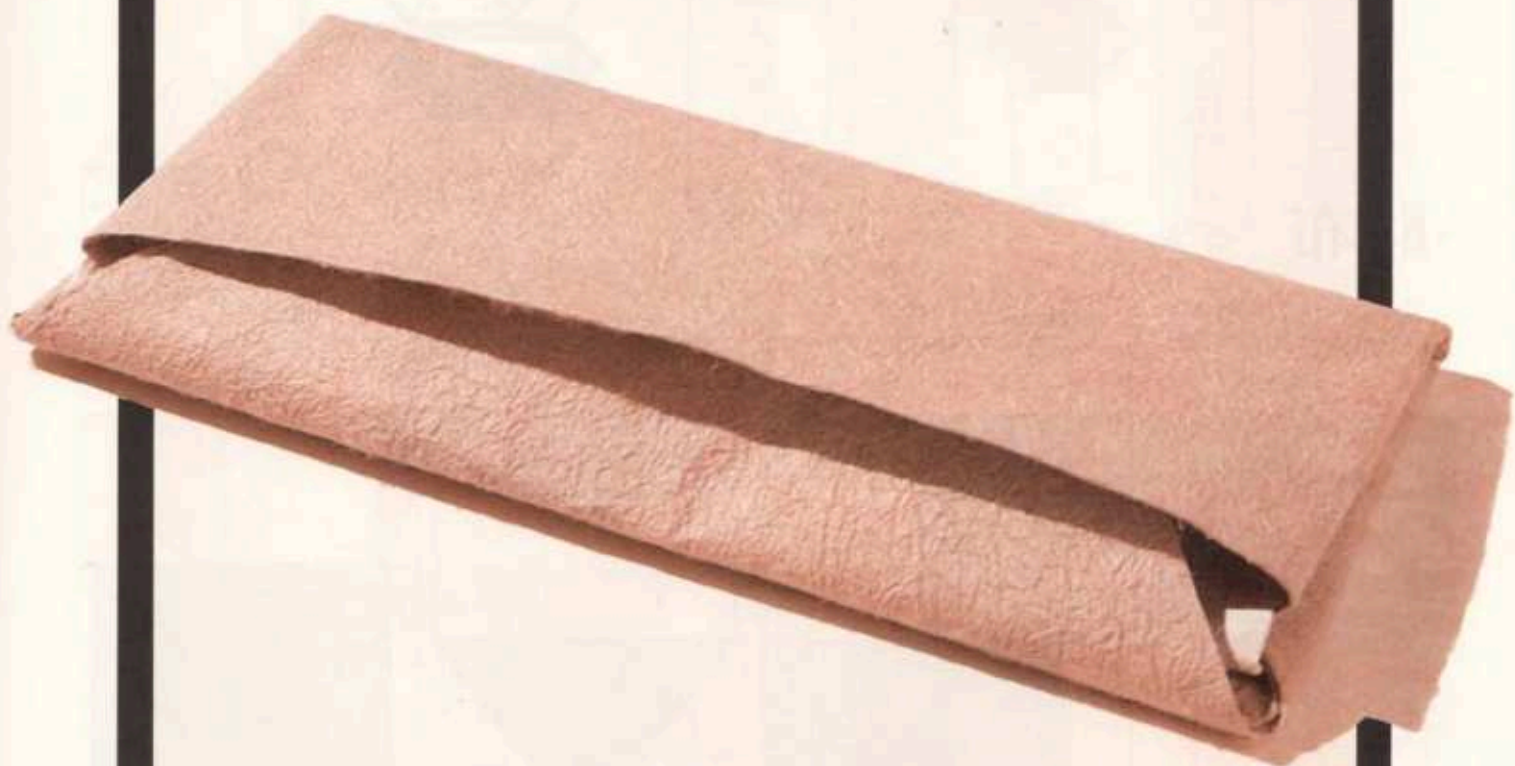


ちょっとしたアイデアで、こんなに楽しく個性的な財布やはし入れができます。

だれでもできる折紙。その美しさが、毎日の暮らしにうるおいをあたえます。

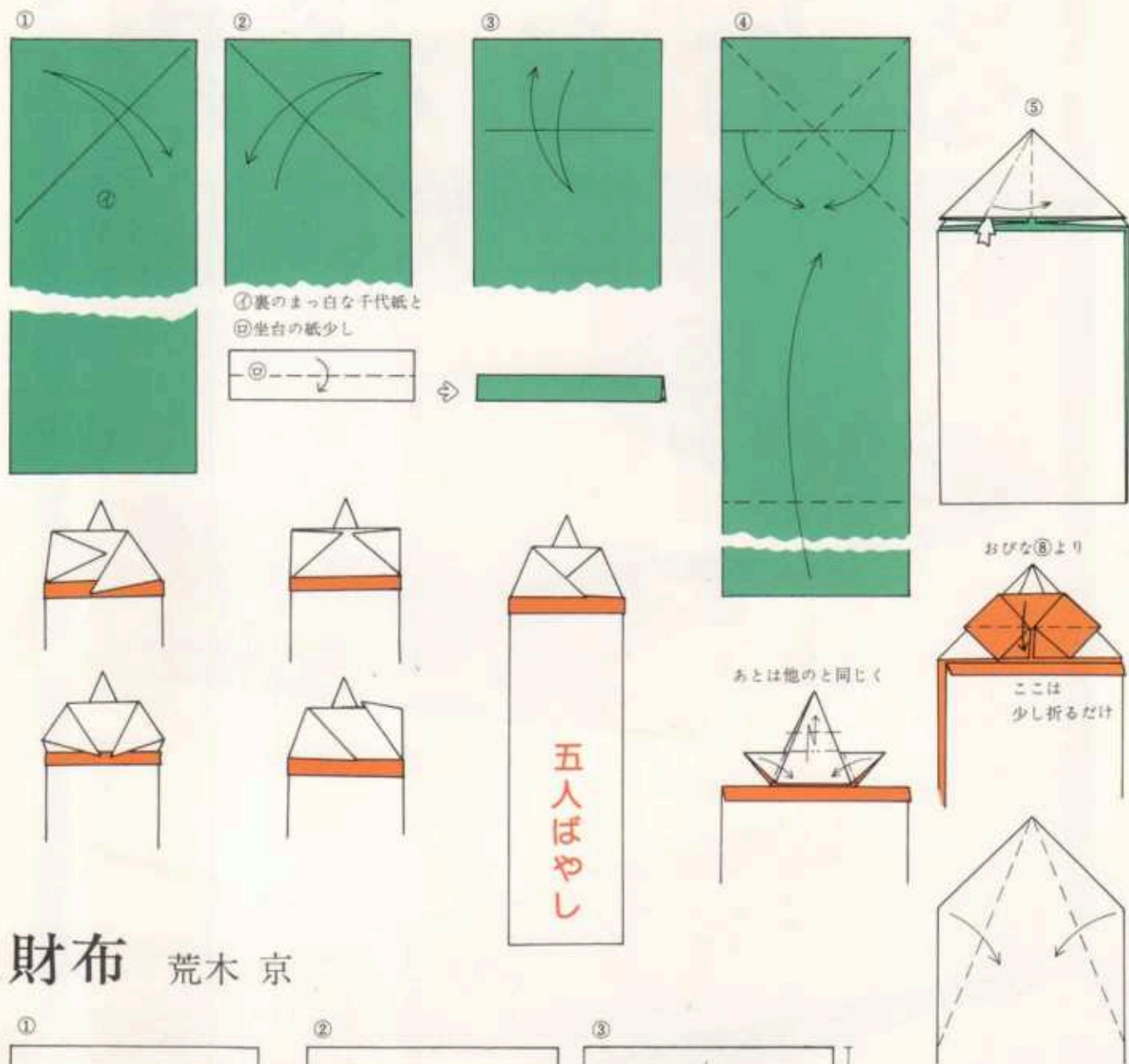


# るおりがみ

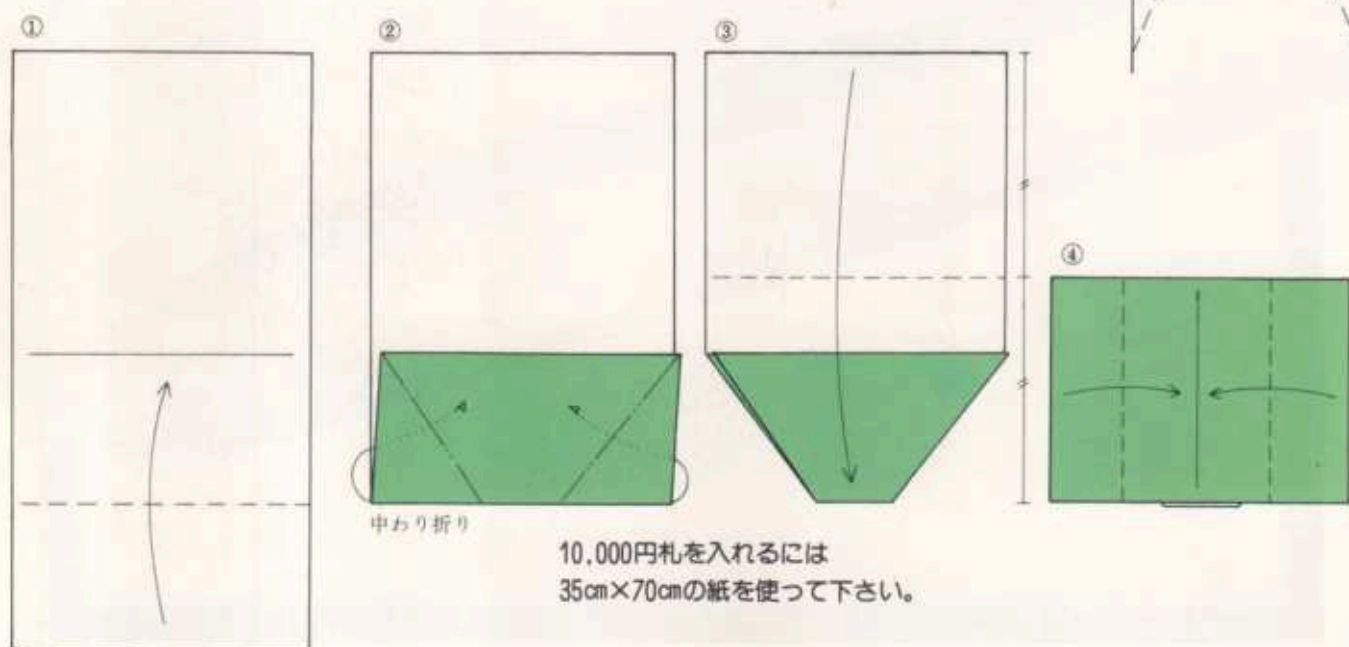




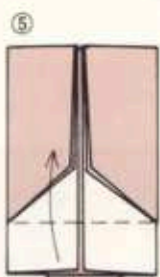
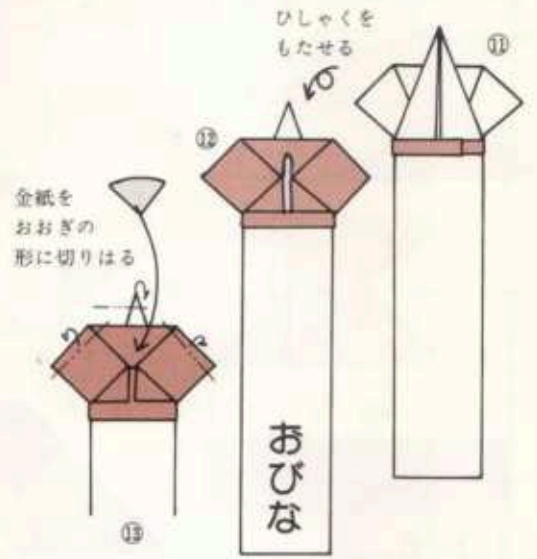
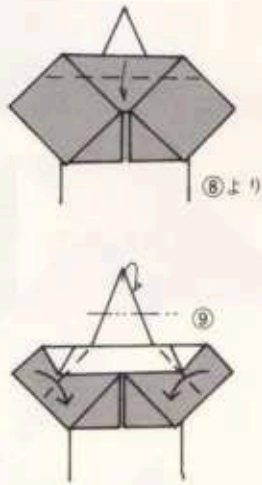
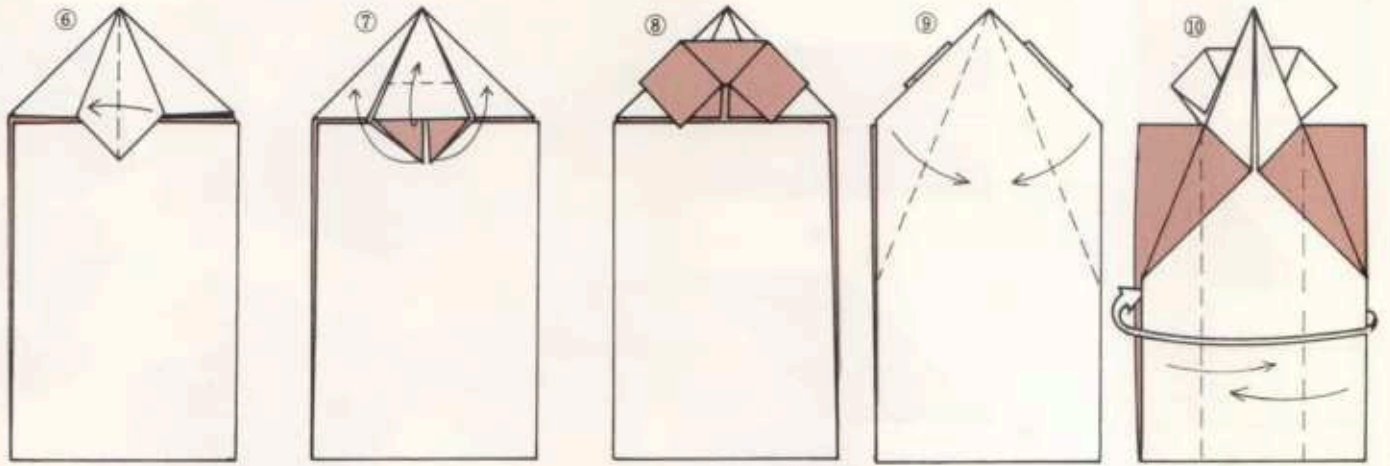
# ひな箸袋 満田きく



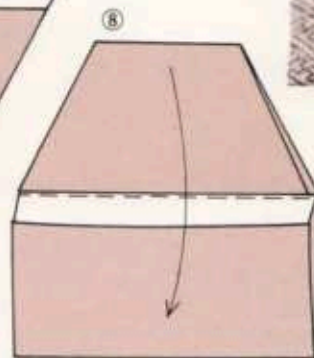
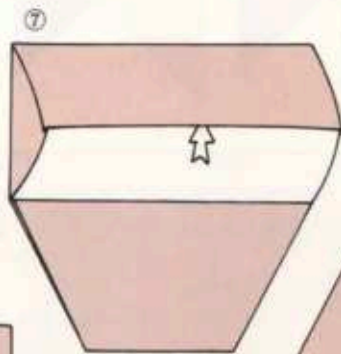
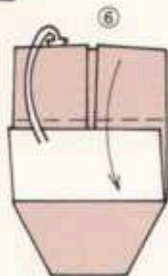
# 財布 荒木京







上側の  
紙だけ  
折る



財布用の紙の大きさは入れるもの  
の中の2倍を巾として長さをその  
2倍とします。

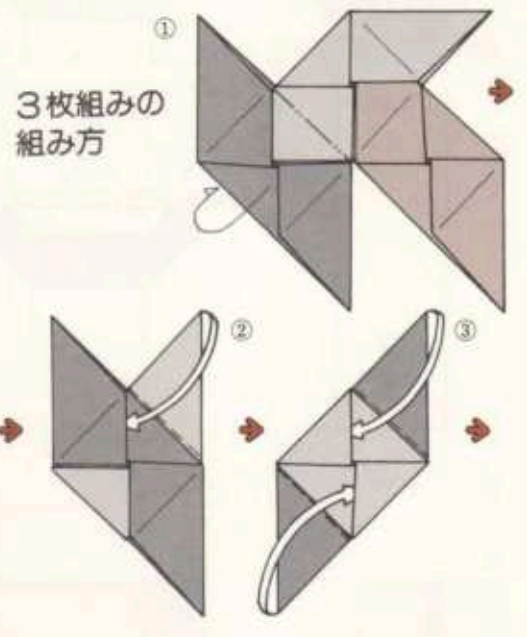
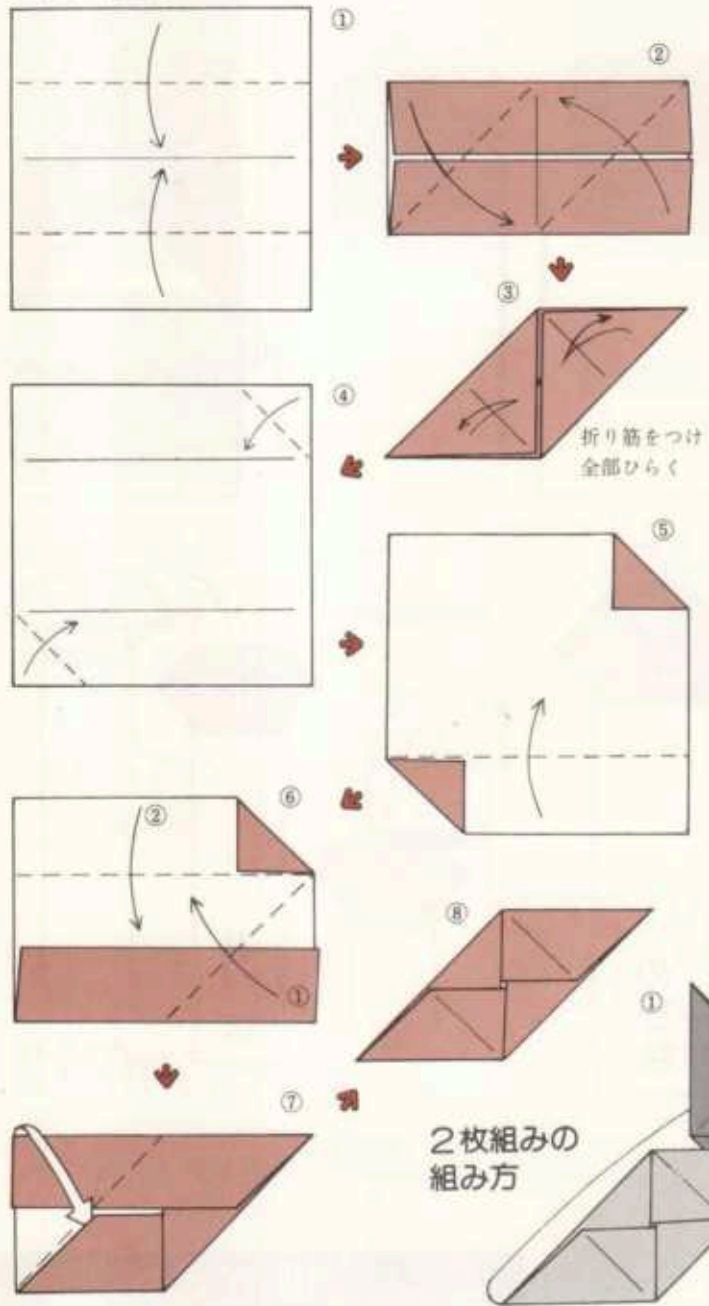


# あの折紙をも

再登場！ 人気があったおりがみの作品集  
 バンダとカラーボックス。この2つの作品  
 はたいへんな人気。みなさんからの要望がお  
 おかったので、折り図をもう一度紹介します。

## カラーボックス

菌部光伸



### 創刊号から前月号までの全作品リスト

#### ●1975年 創刊号

帽子 (ソンプレロ)  
 コップ  
 ハコ  
 ランプシェード  
 ネコI  
 ネコII  
 ネコIII  
 バンダ  
 くちばしの開くトリ  
 オメン  
 いぬ

伝承作品  
 伝承作品  
 大羽志功  
 ボール・今村  
 河合豊彰  
 木村季博  
 河合豊彰  
 笠原邦彦  
 大羽志功  
 大羽志功  
 佐野康博

さかな

#### ●1975年 10月号 (2号)

ヒコーキI  
 ヒコーキII  
 ヒコーキIII  
 ヒコーキIV  
 ヒコーキV  
 ヒコーキVI  
 ヒコーキVII  
 伏差し  
 メモ立て  
 ジャーマン・  
 シェパード・ドッグ

伝承作品

桃谷好英  
 佐竹保正  
 古川八栄  
 西山紀久子  
 桃谷好英  
 長野耕平  
 大羽志功  
 河合豊彰  
 山口 真  
 佐野康博

モールテーズ

スコッチシュ・テリア  
 ダックスフンド  
 ソウ  
 だるまん  
 おすもうさん  
 バクバク  
 ボメラニアン  
 かえる  
 コースター  
 ねこ

●1975年12月号 (3号)  
 クリスマスツリー飾り (A)

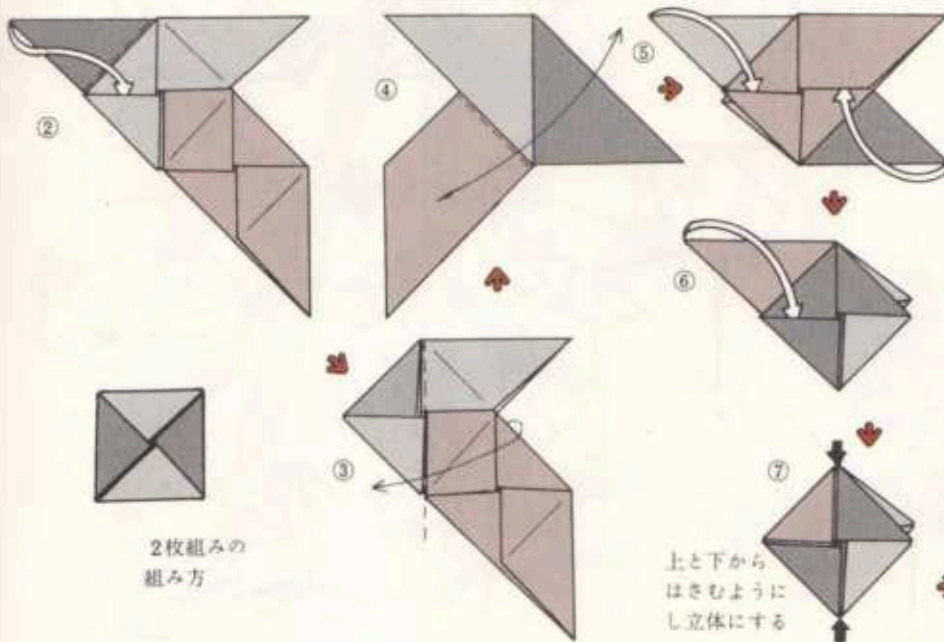
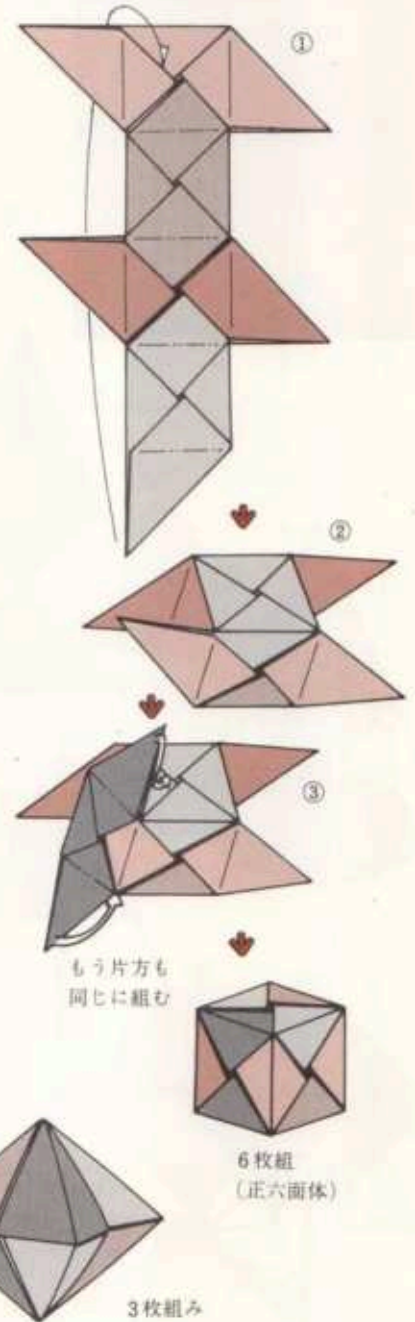
佐野康博  
 佐野康博  
 佐野康博  
 加瀬三郎  
 竹川青良  
 山口 真  
 原 紀子  
 佐野康博  
 伝承作品  
 伝承作品  
 内山真正

小川正彦

# う一度



## 6枚組みの組み方



クリスマスツリー飾り (A) (B) モリ・カーン  
 星 (A) ルイス・サイモン  
 星 (B) レイモンド・マックレイン  
 クリスマス・ツリー 山口 真  
 名札立て 佐竹保正  
 コースター2種 山口 真  
 ナッツ・ボックス 横山 薫  
 ナプキンホルダー びぼ社デザイン部  
 サンタ・長靴 竹川青良  
 こま・メンコ 篠原 勇  
 クリスマスカード (A) 千野利雄  
 クリスマスカード (B) レイ・クッカー  
 お化け 板谷美貴  
 宝石 青木光枝

星・クリスマスツリー飾り  
 ボートに乗る人  
 教会  
 きりん  
 竜  
 ドラゴン  
 のし

●1976年3月号(4号)  
 内裏びな  
 おひなさま  
 しおり  
 懐紙入れ・財布  
 やさしい花の折り方

滝本恒夫  
 ボール・今村  
 伝承作品

橋谷好英  
 小川正彦  
 川畑祥子

小笠原家伝承作品  
 北川和江  
 高濱利恵  
 川畑祥子  
 伝承作品

花の基本  
 バンジー  
 ばら  
 チューリップ  
 たぬき  
 くっしょん  
 小鳥  
 食卓  
 ソンブレロ  
 花びん  
 かんざし  
 花かざり  
 スヌーピー

重部光伸  
 重部光伸  
 重部光伸  
 重部光伸  
 内山興正  
 平岡八重子  
 笠井元子  
 伝承作品  
 大羽志功  
 加瀬聡明  
 日本折紙協会事務局  
 磯海一彦

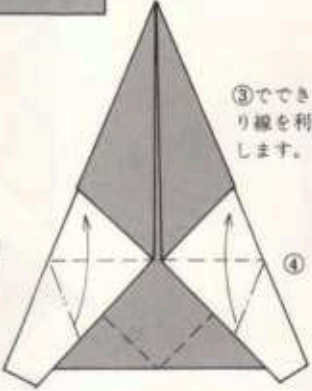
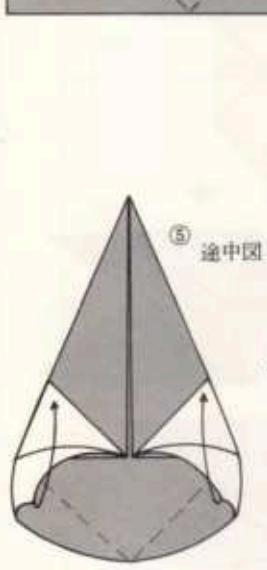
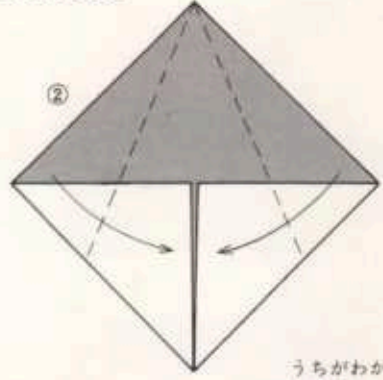
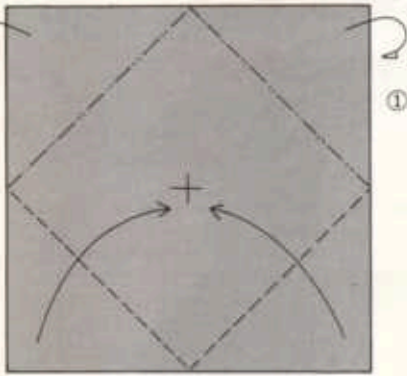


# パンダ

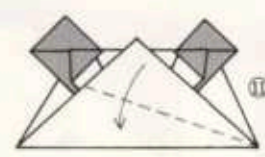
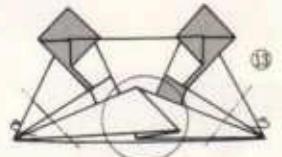
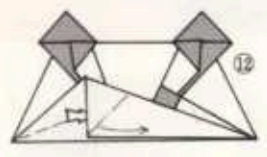
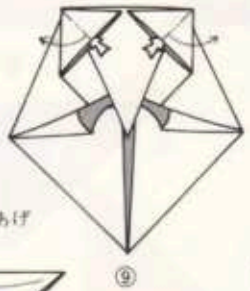
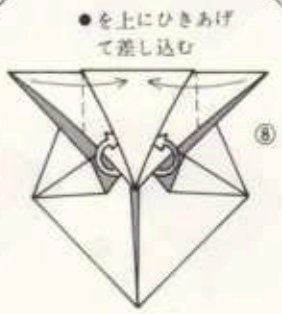
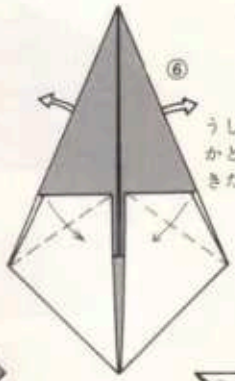
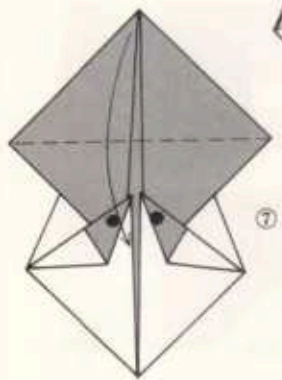
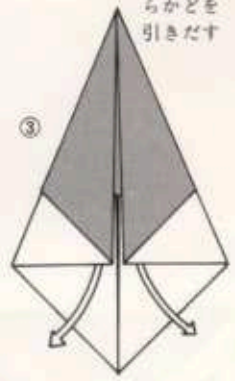
笠原邦彦



## パンダの顔



③でできた折り線を利用します。



●1976年6月号(5号)

- あじさい
- かたつむり
- 兜1
- 兜2
- 兜3
- 兜
- 兜
- 兜
- 兜
- インコ
- こけし
- ジョーズ
- つばめ

- 井石 清
- 井石 清
- 河合豊彰
- 河合豊彰
- 河合豊彰
- 大羽志功
- 青木光枝
- 中野独王亭
- 滝本恒夫
- 中野独王亭
- 川田千鶴子
- 安西 功
- 大羽志功

- かもめ
- きつね
- 金魚
- 指人形とその発展
- 帽子/ゴミバコ

●1976年8月号(6号)

- ベガサス
- ヨット
- 宝舟
- 帆かけ舟
- ヨット
- ヨット
- 舟

- 佐竹保正
- 大羽志功
- 大羽志功
- 長野耕平
- 伝承作品

- 奥田光雄
- 山口 真
- 古典
- 滝本恒夫
- 青木光枝
- 井石 清
- 古典

- 屋形舟
- コアラ
- こひつじ
- おやひつじ
- あやめ
- ほおずき
- やどかり
- 村の子供
- なべつかみ・箱

●1976年10月号(7号)

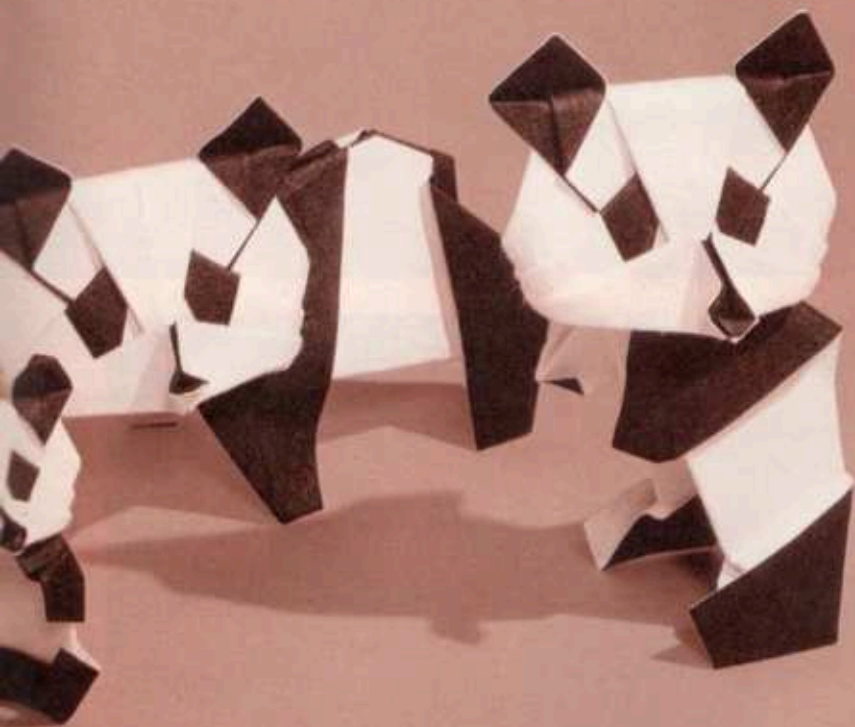
- ペンギン
- ペンギン
- かぶと虫・くわがた

- 桃谷好英
- 高濱利恵
- 石井英子
- 千野利雄
- 加藤啓明
- 中野光枝
- 高木 智
- 大羽志功

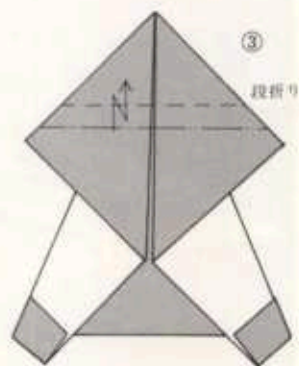
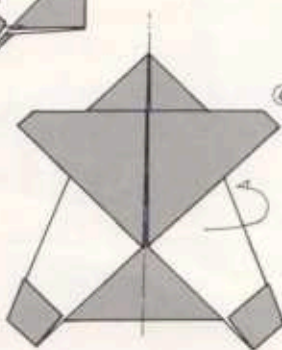
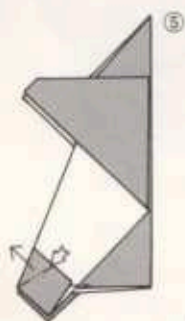
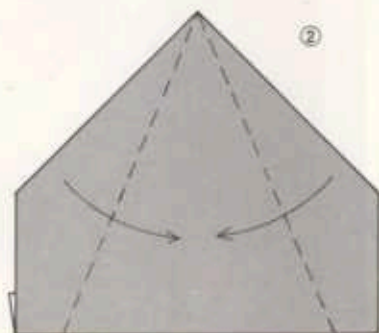
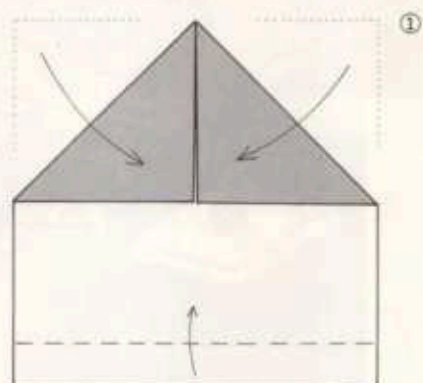
日本折紙協会事務局

- 小林 実
- ロバート・ハービン
- 平井 俊





パンダの胴体



とんぼ  
 ばった  
 ばった  
 すずむし  
 くわがた  
 うさぎのお面  
 ちりとり  
 ハト  
 犬  
 ひよこの帽子  
 コスモス  
 ちょう  
 りす  
 ふくろう

内山興正  
 竹川青良  
 佐竹保正  
 椛谷好英  
 高木 智  
 大羽志功  
 伝承作品  
 伝承作品  
 笠原邦彦  
 大羽志功  
 石井英子  
 石井英子  
 笠原邦彦  
 笠原邦彦

洞穴住人  
 小島

●1976年12月号(8号)  
 そりにのったサンタのおじさん

トナカイ  
 スター  
 スター  
 60°ユニット  
 正三角形のユニット  
 ポインセチア  
 サンタ・クロース  
 トナカイ

マーティン・ウォール  
 ウィリアム・ウォナー

マーティン・ウォール  
 高濱利恵  
 サミュエル・ランドレット  
 エンド・ラ・サール  
 寺田徳重  
 半田丈直  
 高濱利恵  
 花岡次代  
 花岡次代

ししがしら  
 クリスマスカード2種  
 ちょう  
 恐龍  
 福助  
 おすもうさん  
 結び文  
 白鳥  
 ばら  
 扇につる  
 松につる  
 ヘビ  
 コイン・バック

高濱利恵  
 高濱利恵  
 浅野理恵  
 笠原邦彦  
 伝承作品  
 伝承作品  
 伝承作品  
 津田良夫  
 日本折紙協会事務局  
 坂田英昭  
 加瀬三郎  
 佐竹保正  
 篠原 勇



# 人とおりがみ



今月号は、「この広い野原いっぱい」や「待ちくたびれた日曜日」などの素敵な歌詞で知られている、作詞家でもあり、手芸家でもある小園江圭子さんの登場です。

小園江さんは、日本折紙協会の会員で、雑誌「おりがみ」の愛読者でもあります。インタビューの日には、わざわざパイを焼いて日本折紙協会の事務局を訪ねて下さいました。小園江さんの焼いたパイは、驚いたことに兜と奴さんの形をしていました。





# 小園江圭子

## 折紙でつくるパイの味

「私は、だいたいパイをつくって成功したためしがないですよ。皮が層になるのがおいしいのに、いつでもベチャッと固くなってしまいます。料理上手の友達から聞いたら、一回折ったら冷蔵庫に入れて、また折るといいます。そうしたら1日仕事でしょう。」

それで、皮を折紙みたいにうすくして、パッパッと折って焼いたらと考えたわけです。」

折紙と料理。ちょっとしたアイデアで、失敗ばかりしていたパイ料理が楽しくそしておいしく焼けるようになったそうです。この料理法を考えてから、ふつう何もしたがない友達が遊びに来ては、パイを折らせてくれ折らせてくれと相当せがむようになったそうです。大人、特に男性が折紙に感じるてれくさが、こういった料理に使う折紙になるとなくなるようです。これも又、折紙の楽しい一面ではないでしょうか。

折紙パイ料理とでもいえそうなこの料理の具体的なコツを紹介するまえに、このような楽しい折紙の使い方を考えた小園江さんの、折紙についての経験を少し紹介します。

## 折紙は雨がふる日の子供の遊び……

「私は、折紙をはじめ、御手玉、おはじきなどの女の子の遊びは全然だめだったんです。どちらかというと、ビー玉とか、めんこなどの男の子の遊びが得意だったんです。」

特に折紙は、雨のふる日の子供の遊びというイメージが強くて……。」

どうやら幼い小園江さんにとって折紙は、それほど楽しいイメージではなかったようです。ただ、小園江さんのお母さんが折ったという、尾をひっぱると羽根がバタバタと動く鶴はとても楽しい作品だったそうです。

「母は、1日中映画を見ていてもあきないという人だったんです。題名は思い出せませんが、アメリカ映画のなかで、登場したのが、この羽根がバタバタ動く鶴だったそうです。映画を見て、母は折り方をおぼえたということです。」だれにとっても、幼い頃は、静的な

ものより動的なものにより興味をひかれるものなのでしょう。今月号の「おりがみ、今、むかし」のページで紹介した奴さんからの発展、カメラを小園江さんに見せたら、大人でも楽しめる作品だといっていました。

小園江さんにとって、折紙が生き生きしてきたのは、やはりパイ料理に折紙を使うようになってからのようです。



## テフロン加工のシートの上ですばやく折るのが大切……

それでは、折紙パイ料理のコツをいくつか紹介いたします。小園江さんは、まだ、兜と奴さんの2種類しか実験していないようですが、折紙パイ料理に使いやすい作品の特徴は3つだそうです。まず第1に、兜のように中に袋のようなものがあること、第2に、層になるべく多くできるように折り重ねが多いこと、第3に立体的ではなく、平面的であることの3つです。それに、折るのは、とにかくすばやく折らなければいけないそうです。バターが入っているので、すぐに、皮がとけてくるそうです。又、折る場所ですが、これは、ベタつかないところがよいそうです。小園江さんの使っているのは、テフロン加工のシート。ベタつかなく、手軽なのでとても便利だそうです。

読者のみなさんの中に、これこそ折紙パイ料理に最適という作品を見つける方がいらっしゃるかもしれません。折紙パイ料理、一度ためしてみる価値があるようです。





お り



こんにちは、初めまして。  
リスの表紙の10月号「おりがみ」(もち、この本のことよ)を本屋で見、折紙で遊んだ幼い日のことを思い出しました。貴重な貴重なおこづかいなんだけど……今月号もカラフルな表紙にひかれて、つい買っちゃったのです。

そう、私の大発見、聞いてくれる？この前の日曜日、抽選券にさそわれて、「ガス展」(日本橋・三越でやりました)に行ったの。そしたら、なんとなく折紙なんぞ教えてるじゃない。若い女の人が、大きな紙で子供相手に「さあ、折りましょうね」なんてやってるワケ。私、初めのうちはチョッピリばかにしてたの。こんなところで教えてるのなんて、ロクのない……ってね。鶴を折ってたんだけど、私、へえー鶴も折れない人がいるのかな、と思って見ていたのです。そしたら、「はい、しっぽを引っばって下さい。飛んだかな？」って、折紙教えていたお姉さんがいうのです。私、びっくりしちゃった。だって鶴の羽がバタバタ動いているんですよ。動く折紙なんて、私大感激。遊ぶ折紙、動く折紙、もっともっと教えて下さい。

(中野区本町5-4-6 鈴木薫子)



だいたい500円もだして折紙の雑誌を買うなんて酔狂なまねをするのは女、子供に限ると決めつけていた小生が子供の買って来た雑誌「おりがみ」のトナカイを悪戦苦闘のすえおあげたとき、思わず子供と手を取りあって喜んでしまいました。願わくは定価をもう少しやすく、付録におりがみをつけていただければ幸いに思います。

(東京都町田市木曾町425 渡辺明男)

ただ1枚の紙を折るということ、こんなにもさまざまな世界を創り出せるということに、ひどく驚いているこの頃です。何気なく手にした、この「おりがみ」の本は、私にとってひとつの発見でした。発見なんていうと少々オーバーでしょうか。でも、今まで、ただの紙っぺらでしかなかった1枚の紙が、立体になり、それぞれの空間を創りだすと、もうわくわくしてきて、これは私の創った世界なんだ、なんて思って、イメージはもう果てしなく広がっていってしまうのです。ただ悲しいことに、イメージにうまく手がついていってくれないのです。そこところは、これからゆっくりと時間をかけてゆくとして、ともかく、ひとつの新しい世界を教えてくれたこの「おりがみ」という雑誌に感謝しています。

(三重県鈴鹿市福生町7992 黒沼武美)

冬をむかえコタツに親しむ今、折紙を手にして、ふと思ひ出します。京都の冬を。学生生活を送っていた時分、堀ゴタツに両足をあたためながら、アパートの大家さんの美しい娘さんに、初めてユリの花の折り方を教えてもらったことを。バカの一つ覚えで、列車に一人身を揺らす時、タバコの銀紙を広げて無心にこのユリの花を折っている私です。

折紙は、私にとって、折鶴のなつかし

さがあり、ユリの花のあこがれがあり、夢の世界を心のかたすみを持たせてくれる友だちです。

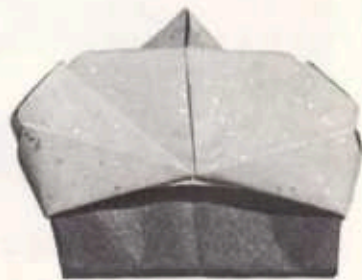
(埼玉県大宮市大成町1-534-19

玉利英己)



「おりがみ」との出会いは、51年の12月号が初めてです。友人に初めて見せてもらいました。ほんとにユニークな雑誌ですね。色もきれいだし、クリスマスとお正月にふさわしい折紙で楽しくなりました。12月号の中で一番気に入ったのは、シリーズ「人と折紙」熊坂浩さんの欄の写真の隅の方に小さく写っている、可愛らしいヘビ君です。丸まっていたり、背伸びしているみたいだったりしてとても可愛らしいですね。私は、折紙も、小さい作品を作るのが好きです。小さいけど、精巧にできた折紙が折れたらなあと思います。編集部の皆さん、これからも可愛らしい作品どんどん紹介して下さい。

(杉並区下高井戸2-5-2 佐藤顯子)



毎号「おりがみ」を買い求めて子供と一緒に折紙を楽しんでいる32才の主婦です。季節に合った内容がとても楽しみで、12月号のトナカイとサンタクロースはともに素晴らしいと思います。

折紙の本にはたくさんの動物が出てきますが、いつも折ったあと子供と動物に目を入れて楽しんでいます。

あまり上手に目が書けないのでせっかくの動物もだいなしになってしまうことがあります。

できましたら可愛い目をシールにして一緒に入れて頂けたらもっと素敵な本になると思います。

(新潟県新発田市 渡辺よし子)



# が み 広 場



旅行した時は、列車の中で退屈している子供さんに折紙をつくってあげることにしています。そのための用意に紙を持って行くのを忘れないようにしています。

子供さんの目が輝きだして二、三の作品で二時間ぐらいはあそんでくれます。

(尼崎市西字本田15-1 山中栄子)

まったく、折紙に関心のなかった私ですが、雑誌「おりがみ」の夢のある表紙にひかれて買ってみました。

1ページを開いたとたんむずかしそうな図。でも、頑張って製図とにらめっこ「うーん、ここはどうしたらいいのかなあ……」。こんなことを、くり返し、あげくのはて、折紙協会へ行ってみました。

感激!! 完成したんです。私、なかなかやるじゃない、といたいところだけど、折紙協会のお姉さまがとってもわかりやすく親切に教えてくれたおかげです。ありがとうございました。

(江戸川区北小岩3-26-10 グリーンフィールドハイツ211号 斎藤真理)

「おりがみ」を手にするのが待ち遠しく思っていましたやさき、12月号を受け取りました。さっそくページをめくってみました。

各号その月々にあった作品の掲載はとても興味を抱かれます。ことにクリスマス・カードなど……手作りで今年は友だちに送ってみたいと思っています。まだまだ未熟な私ですけど、折紙を今後も勉強していくつもりです。

今から、次号の「おりがみ」が来る日を楽しみにしています。

(秋田市金足嶋崎11 高橋真喜子)

たのしい雑誌ありがとうございます。  
おりがみは、自分では得意のつもりなのですが、本誌による展開図には少々苦勞しています。少しでもレポートリーをひろげ、知恵おくれの人たちへの実践に役立たせたいと思っています。集中力をつけること、形・色々の折り方など手にマヒのある人たちに大いに役立っています。初めてここに赴任して、奴さん、船、かぶなど教えましたが、順序よくおぼえ、半年かかってやっておれるようになった時のよろこびは、今でも忘れません。  
(国立市谷保6312 滝乃川学園内 黒木公一)

6月号より愛読させていただいております。子供たちの指の発達のためとおもい園長と相談のうえ「一日一回の折紙運動をはじめました。園長はヒコーキ、私はその他のものと役割をきめておこない7ヵ月たちました。

今では自由時間や昼休みを利用してグループをつくり応用創作に励んでいます。

子供の菓子箱にはぎっしりとおりがみの人形や動物が詰められています。これからも、楽しい雑誌をお願いします。

(鹿児島県西之表市西之表納曾 上妻茂美)

## ●サンリオ・ギフトブックシリーズ

「すてきなおりがみ」キティとおろうー 笠原邦彦著 ¥350

A6判 48ページ オールカラー

小・中学生を対象に、これから「おりがみ」をはじめのひとが、たのしくやさしく折ることができるよう、内容は、かんたんな作品からはじめて、最後にはむずかしいパンダが折れるようになっていきます。

「ふしぎなムクムク」「チューリップ」「天使」「ユニットかざり」「鶴」「パンダ」他20種類もの折紙がおぼえられます。

あなたの知りあいの方やお子様へのプレゼントにも最適です。



11月1日から3日まで、東洋英和女学院中高部の学園祭「楓祭」がひらかれ、本誌で何度か紹介した魯緬庵作「千羽鶴折形」が古典のテーマとしてとりあげられました。日本や世界の古典を再発見しようというテーマで、会場には、千羽鶴以外「マザーグース」なども紹介され楽しいブースになっていました。

折紙の展示は、川崎光子さんの折った百羽のつなぎ鶴の他、内山先生のタヌキなど多数ありましたが、これらの作品は、石井茂美さん、奈良村明子さんなどを中心に1日で折ったそうです。

学園祭に、日本の伝統「おりがみ」がとりあげられるのも、そのすばらしさが若い人たちに知られてきたということでしょうか。





# 応募作品紹介

読者のみなさんの創作、「おりがみ」についての御意見、などを紹介するページ。

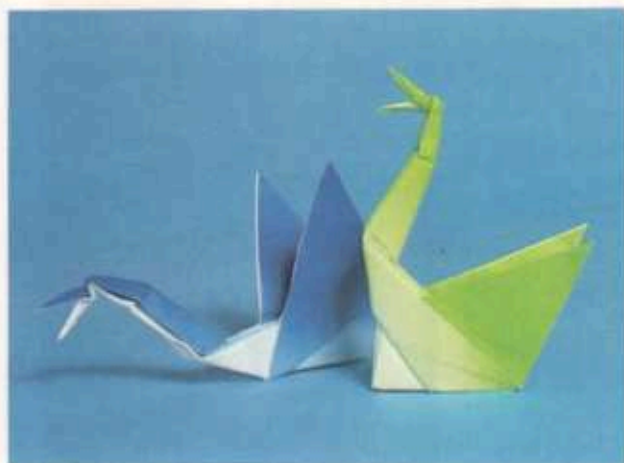
- 正方形または単純な幾何形で折った作品であること
- 必ず創作であること

■応募作品には折り図をそえて下さい。基本形から折るものでしたら、その基本形からの図で結構です。

■作品は同じものを2点送って下さい。

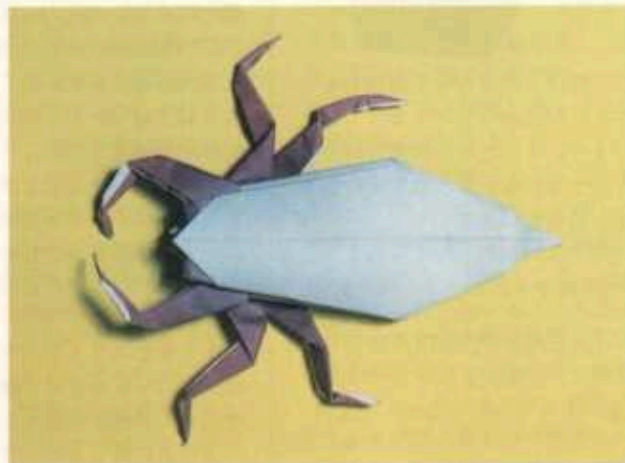
■応募作品のうち特によいと思われる作品はこの雑誌で紹介し、できるだけ折り図ものせていきたいと思ひます。

■応募作品は返却しませんが、作品と折り図は協会で大切に保存いたします。



「みにくくないあひろの子」姿がすっきりとしていて女性らしい造形だと思います。首が長いので鶴のような表情もあります。そのほか表情のつけ方によってはさまざまな水鳥ができそうな感じがすね。

〒636-01 奈良県生駒郡斑鳩町竜田1298-88 森谷あきよ



「たいこうち」かえるの基本形Iから、色のほかしをそのままかして、よく虫の感じを出しています。足を6本つくるのにはさみを入れていますが、こんどははさみを入れずに6本足をつくることにも挑戦してみてください。

〒113 東京都文京区向丘1-7-7 久米 勉



「うさぎ」2そう用の折り筋を逆転した伝承のふたの基本形からできたうさぎ。頭が大きく、かわいい尾もできて、なかなか形もきれいにできています。難をいえば前足から首の線がやや固いのが気になります。

〒376-01 群馬県大宮町6-927 大沢栄一



折り図あり

「トータムポール」いつもいい作品をありがとうございます。今回は「トータムポール」を紹介させていただきました。折り方もたいへん規則的でどこにも無理がなく折紙らしい作品です。ただし、積み重ねるとき下の作品の頭がどうしてもかくれるのが欠点でしょう。下の顔も生きて、順に重ねていけるものができたら申し分ありません。

〒270-11 我孫子市湖北台7-14-54-505 山崎和子





「おかめ」「はんにゃ」もうすでに折紙作家として御活躍の黒川先生から、お面がよせられてきましたので、ここで紹介させていただきます。「おかめ」の髪、まゆ墨、口などがうまく黒を出している点などさすがです。「はんにゃ」なども、それぞれの特色が立体的に表現されており、みごとなものです。いずれ折り図などものせたいと思いますが、今回はとりあえず写真のみ紹介させていただきました。 東京都江東区亀戸5-10-12 黒川一郎

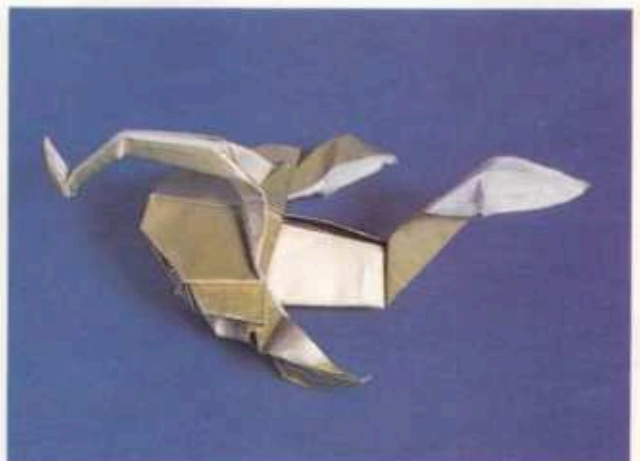


「おかめ」「はんにゃ」もうすでに折紙作家として御活躍の黒川先生から、お面がよせられてきましたので、ここで紹介させていただきます。「おかめ」の髪、まゆ墨、口などがうまく黒を出している点などさすがです。「はんにゃ」なども、それぞれの特色が立体的に表現されており、みごとなものです。いずれ折り図などものせたいと思いますが、今回はとりあえず写真のみ紹介させていただきました。 東京都江東区亀戸5-10-12 黒川一郎



折り図あり

「ゆうれい」「あんこう」とどちらを図にのせようかまよいましたが、こちらの方がやや形がまとまっているようですのでこれにしました。「ゆうれい」は、いろいろな人が折っていますので、似た作品もありますが、うしろ髪の長くのびた感じ手の表情など既成のものにおとらない立派なものです。 木谷太士郎



「あんこう」小学校3年生の太士郎君、いい作品をありがとう。「ゆうれい」の方は、折り図とも紹介させていただきました。この「あんこう」もむずかしい技法を使った立派な作品です。病気がちとのこと、からだを大切にしてください。また作品ができたなら送ってくださいね。 〒061-21 札幌市南区登川1389-2504 木谷太士郎



折り図あり

「ぞう」この作品は少し折り筋が多すぎて「かわうそ」とくらべると少し整理が必要かと思います。足が3本というのも気になります。しかし、はさみを入れず、大きな鼻やきばができてはさすがです。 永谷照男



折り図あり

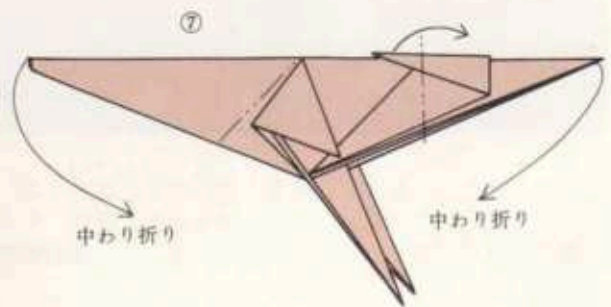
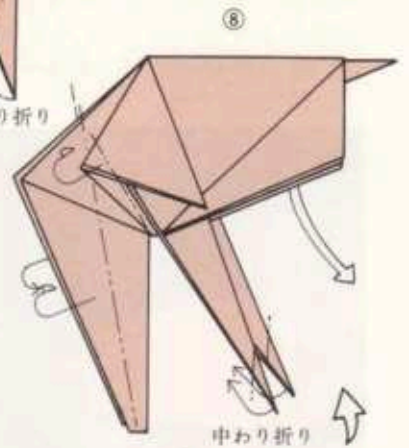
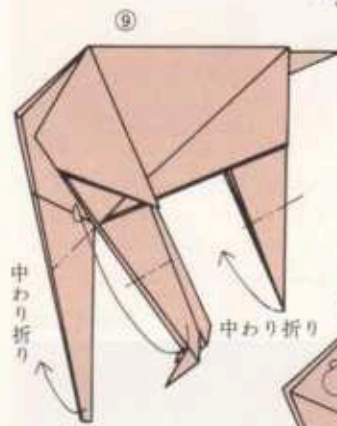
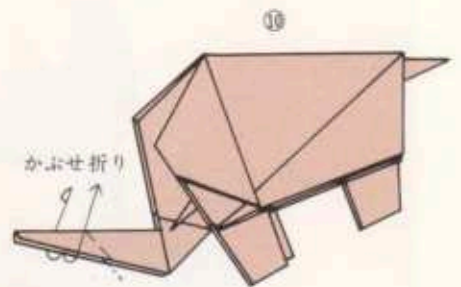
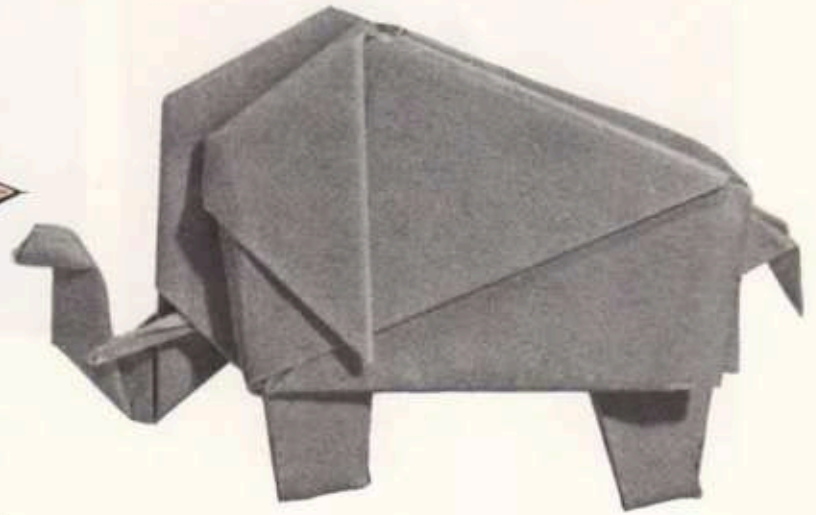
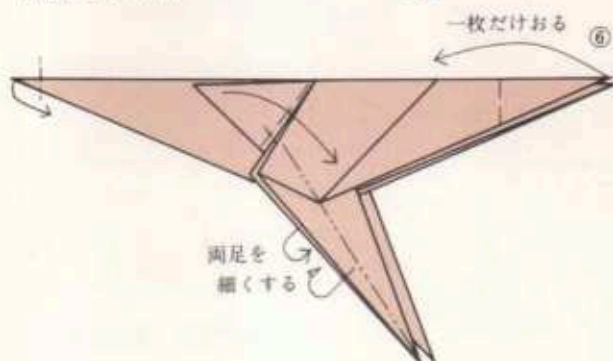
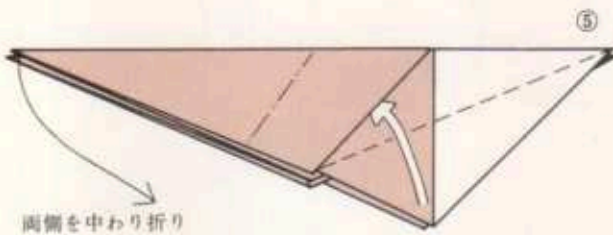
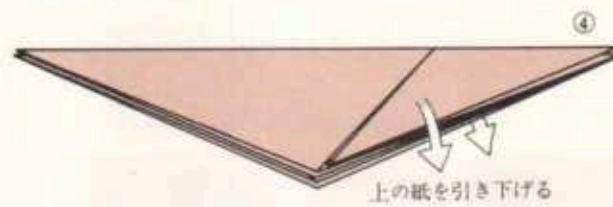
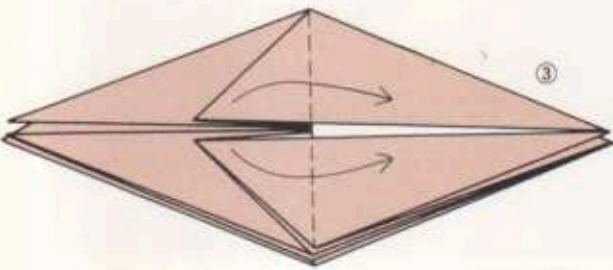
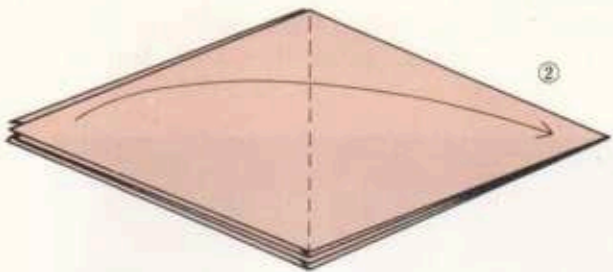
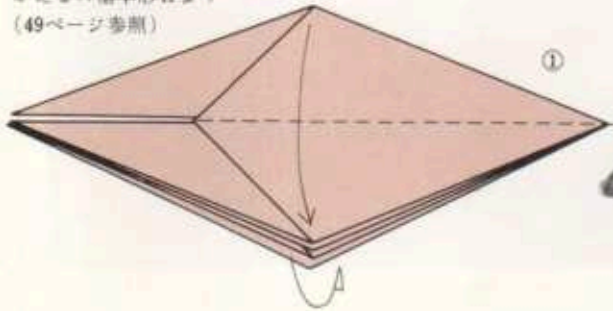
「かわうそ」新しい創作品をありがとうございます。今回は折り図も紹介させていただきました。作品としてはもう一つの作品「ぞう」よりこちらの方がいいと思います。ベースそのものも、これからの発展がいろいろ考えられそうだしへんすばらしいものです。 〒070 旭川市神楽7-11 佐藤雄方 永谷照男



# ぞう

永谷照男

かえるの基本形IIより  
(49ページ参照)

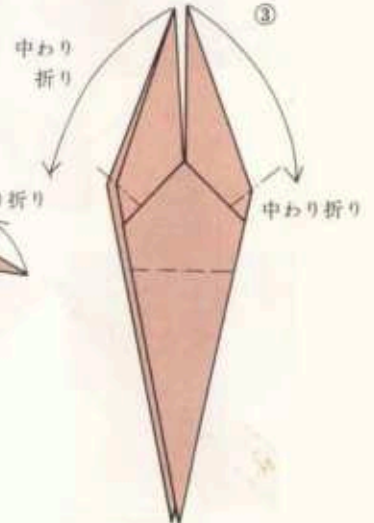
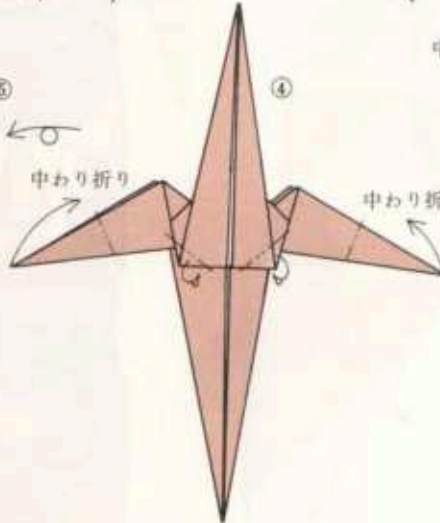
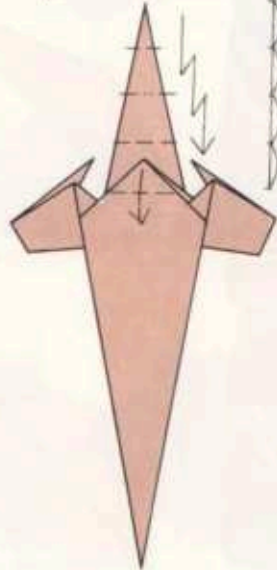
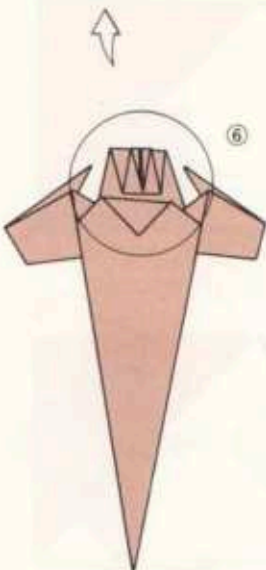
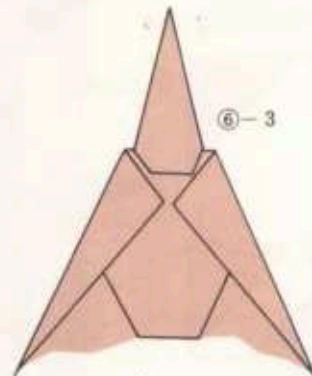
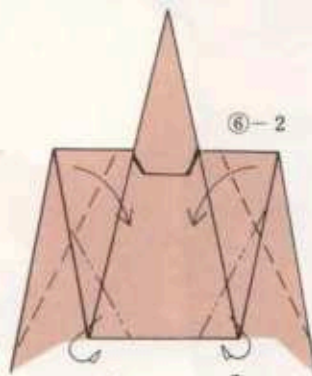
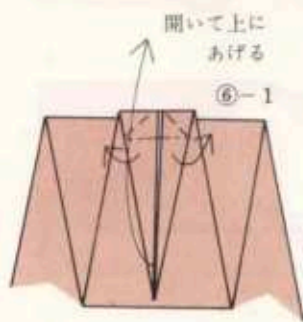
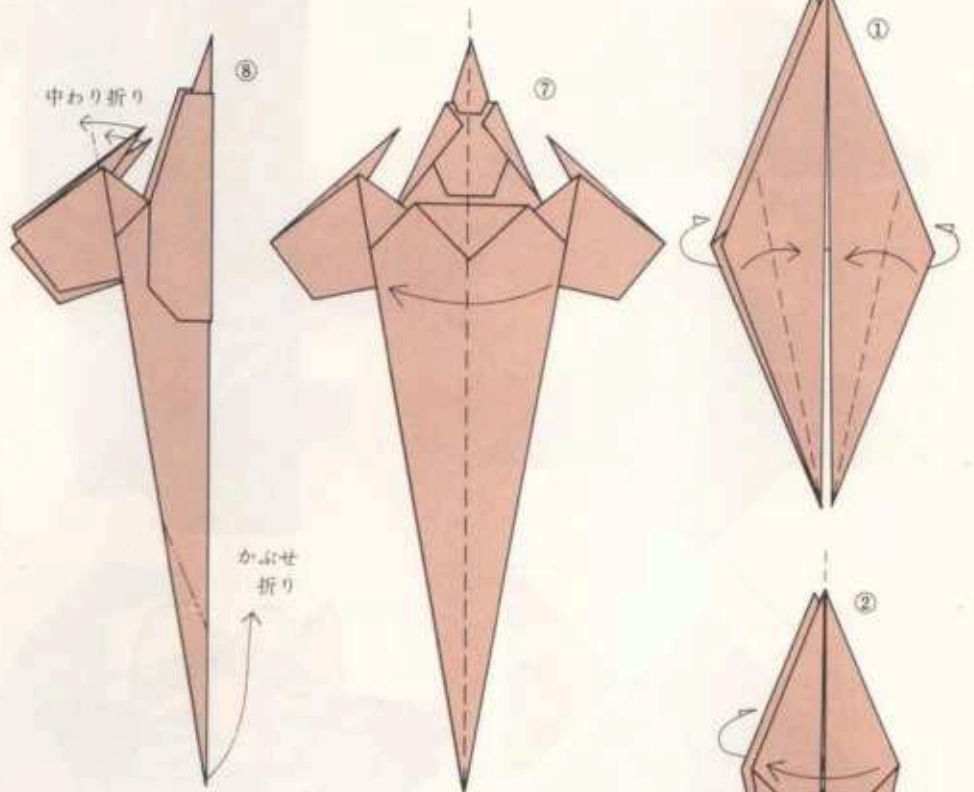




# おぼけ

木谷太士郎

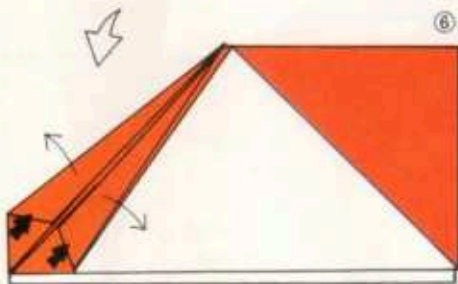
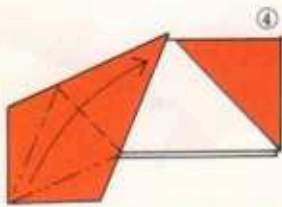
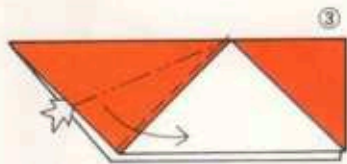
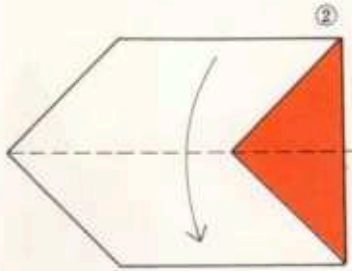
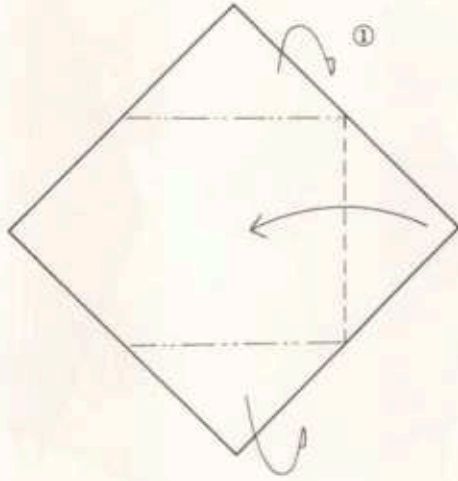
鶴の基本形より  
(49ページ参照)



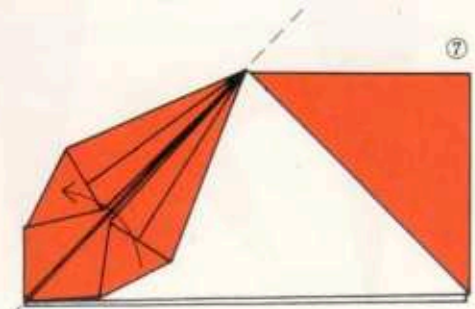
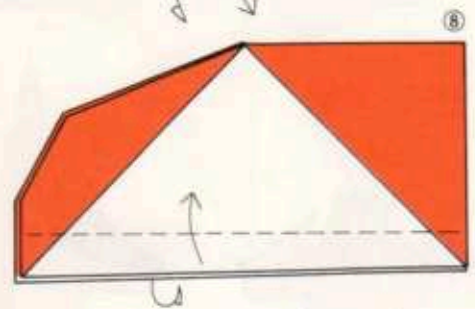
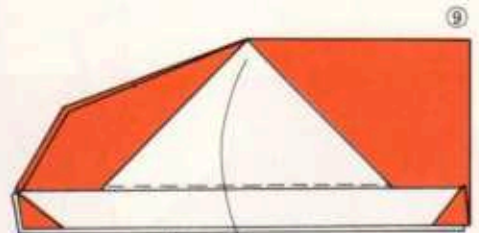
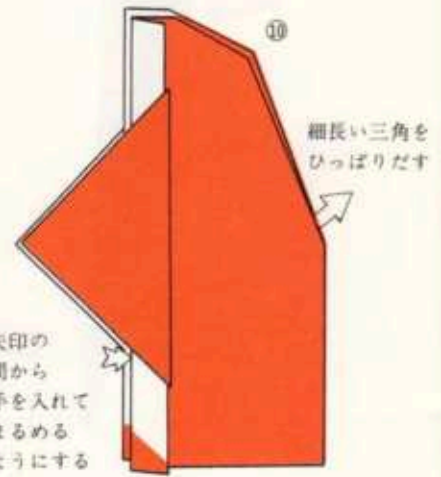


# トーテム・ポール

山崎和子



できあがりを目などをかきこんでみては……



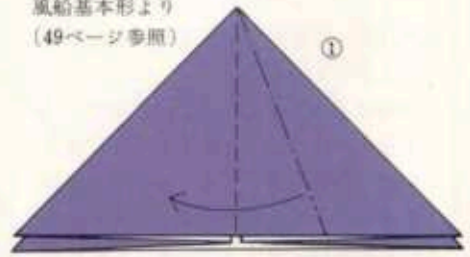


# かわうそ

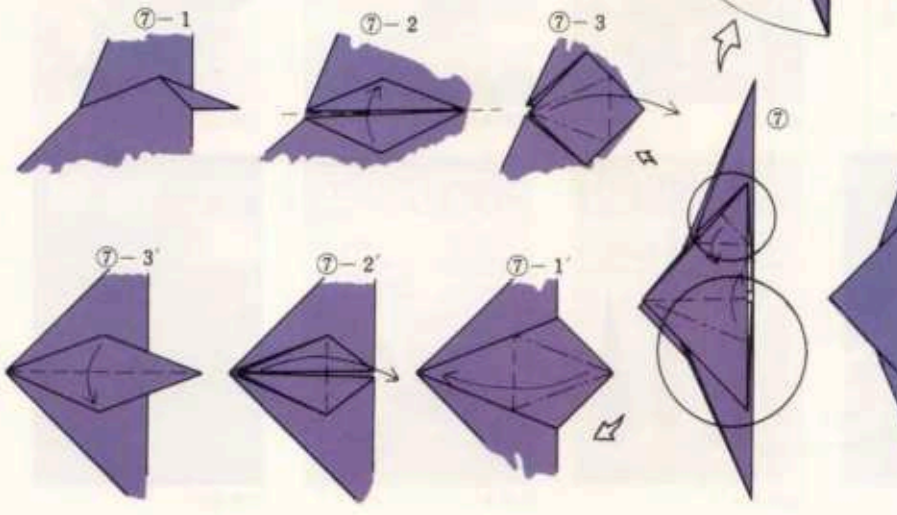
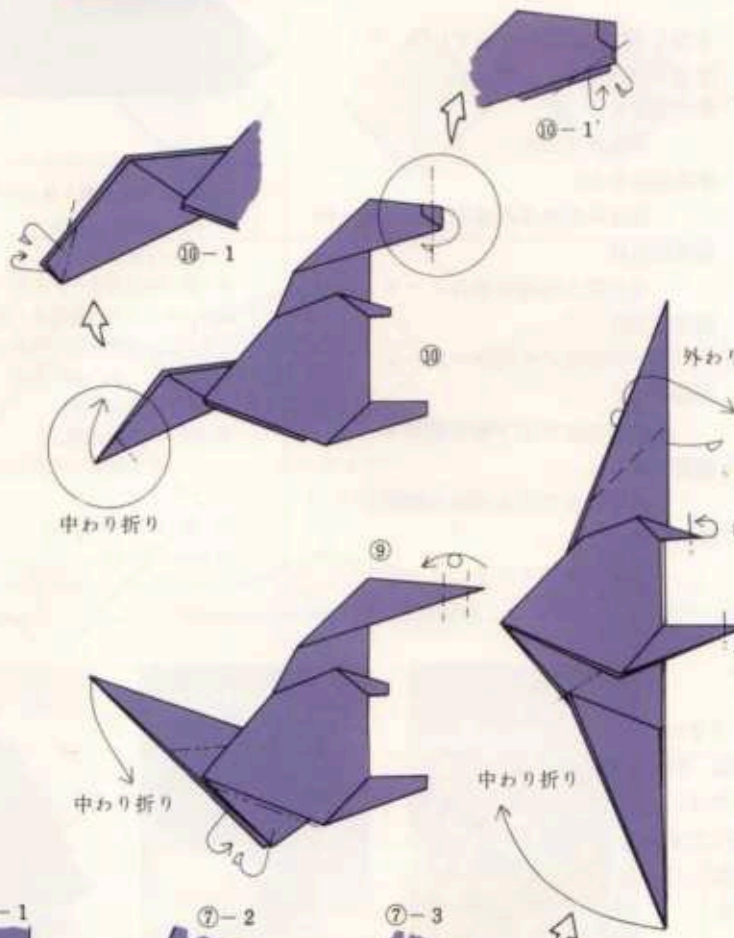
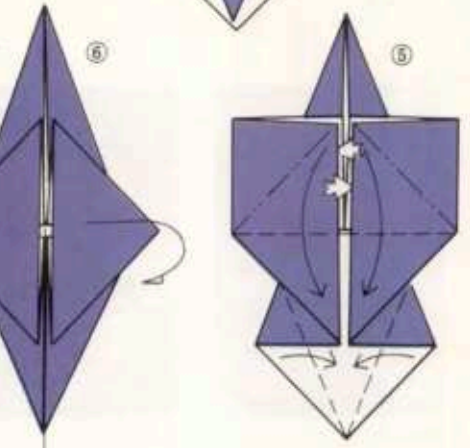
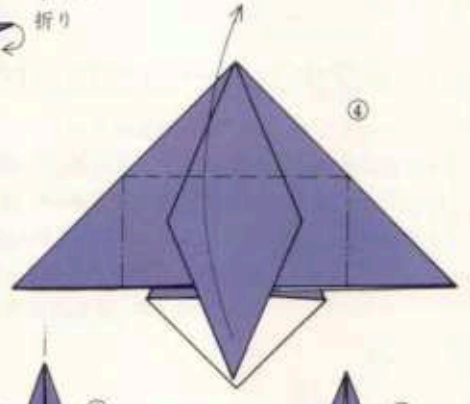
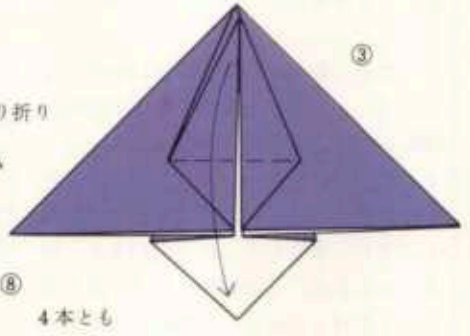
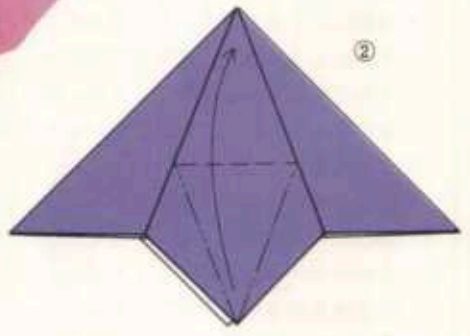
永谷照男



風船基本形より  
(49ページ参照)



裏も同じ



中わり折り

中わり折り

外わり折り

4本とも  
中わり  
折り



今月号から雑誌の体裁をあらためると同時に編集の内容も多少変更することになりました。手仕事を再評価する社会の風潮にそって折紙の愛好家も社会の各層におよんでまいりました。

協会はそれらの声に答えて、少ないペーをオールランドに編集してまいりましたが、今度焦点をしばらくその中心を母と子が共に遊び、学べる折紙に置き、内容の充実をはかることにしました。折紙を研究なさっている各位の提案や助言を積極的にとりあげてまいります。

ふりかえってみると、従来の幼児折紙のとりあつかいは紋切型で、子供の創造力をはぐくむためには欠けた面が多かったように思います。

皆様方の英知を集め、折紙を単なる子供の遊びにとどめることなく、伝統的な紙工芸のユニークなものとして子供たちの心にとめられる資料を提供してゆきたいと考えています。皆様方の御協力を切望いたします。(内藤正光)

1977年の創刊号、2月号はいかがでしたか？ この号から左閉じ、文字は全部横組みです。カラーページは少なくなりましたが、1色ページがなくなり、2色ページができました。前よりも、カラフルで楽しい感じになったと思います。読者のみなさんにより理解しやすい折り図をおとどけしたいという願いをこめて、

思いきって雑誌のイメージをかえてみました。子供達に夢を与え、心を豊かにする日本の伝統、折紙をより多くの方に読みやすい定価でと考えてのことです。

今月号に、「あの折紙をもう一度」というページをもうけましたが、笠原さんのパンダと園部さんのカラーボックスの評判がたかいので、再び折り図を紹介してみました。きっと喜んでいただけたと思います。以前の号のなかに、写真だけで折り図の掲載されなかった作品、折り図のわかりにくい作品などあったと思います。再掲載希望の作品がありましたら、御連絡下さい。(さとう)

本誌に作品が掲載されている皆さんです。

- 竹川青良  
奈良市疋田町2-2-9
- 森谷あきよ  
奈良県生駒郡斑鳩町竜田1298-88
- 奥田光雄  
埼玉県上福岡市南台2-4-7
- 高濱利恵  
杉並区松ノ木町3-24-2
- 満田きく  
京都市左京区下鴨北園町8
- 荒木京  
京都市左京区吉田中大路町1
- 笠原邦彦  
多摩市永山4-3-2-401

- 園部光伸  
豊島区上池袋4-10-6
- 中野光枝  
中野区新井1-31-14
- 石井英子  
北区滝野川6-6-8



おりがみ 第3巻第1号1977年2月1日  
編集—日本折紙協会  
発行人—下中邦彦  
発 売—株式会社サンリオ  
編集スタッフ—内藤正光・佐藤 誠  
デザイン—高橋重行・写真—藤井 寛  
折り図—山口真・石井英子  
印刷所—東京印書館  
発行所—日本折紙協会  
東京都品川区西五反田7の22の17  
TOCビル1F  
電 話—東京494-5354  
定 価—380円

### バックナンバーのお知らせ

バックナンバーは、近くの書店又は、申し込まれる冊数の金額に送料をそえて、左記の所に振替(188035)か、現金書留で申し込んで下さい。送料は、1冊120円、2冊160円、3冊200円、4冊240円です。

〒141 東京都品川区西五反田7-22-17  
TOCビル1F 日本折紙協会



在庫なし



在庫あり



在庫なし



在庫なし



在庫あり



在庫あり



在庫あり

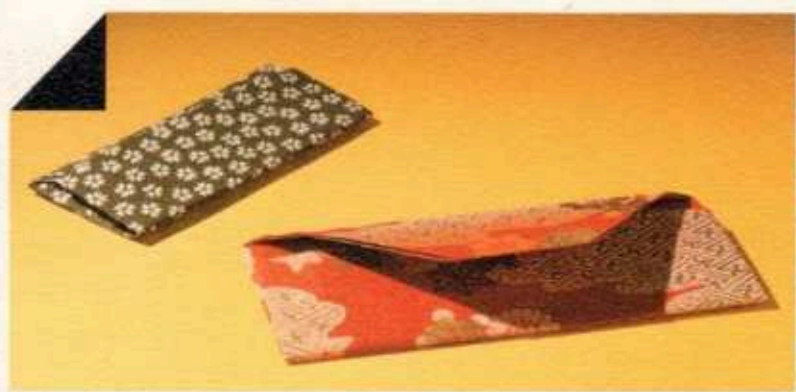


在庫あり









発行 日本折紙協会 発売元 株式会社サンリオ 三八〇円

